

授業科目	英語Ⅲ（読解） English III			担当教員	松尾 文子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	1. 一般的な英語表現形式の確認を行い、読解能力を強化する。 2. 医療・看護・福祉分野の文献を読む。 3. 本文を通して、今日的なテーマに対する興味を持つ。						
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握する。 2. テキストを通じて英語の表現力を高める。 3. テキストを通じて語彙力を高める。						
関連科目	英語 I, II, IV						
テキスト	<i>Reflections—Learning English through Real Nursing Stories—</i> . 田中芳文(編著) (三修社, 2023)						
参考書							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、授業で行う小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。				
	レポート						
	小テスト	20					
	提出物						
その他	10						
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。テキストの Further Study の提出は任意だが、積極的に取り組むことが望ましい。						
課題に対するフィ ードバックの方法	中間試験は解答例を配布し、各自確認してもらおう。基準点に達しなかった学生には課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせは授業中に行う。テキストの Further Study に関しては、コメントを付して返却する。						
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	治療法の選択	Introduction / Unit 1: No Regrets				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
2	病を抱えての日常生活	Unit 2: Ordinary Things				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
3	看護師として成長する	Unit 3: Making It Fit				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
4	臓器移植と家族の要求	Unit 4: Promises to Keep				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
5	小児科看護師として	Unit 5: The Eyes of a Pediatric Nurse				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
6	清拭	Unit 6: Bed Bath				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
7	看護師の母親を担当した看護師	Unit 7: A Nurse's Mother's Nurses				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習(4時間)	
9	緩和ケアにふさわしい機会	Unit 8: A Place for Palliative Care				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
10	引退した医師の思い	Unit 9: My Turn				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
11	わが子に注ぐ愛情	Unit 10: Big Love				テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	患者が抱く恐怖感への 対応	Unit 11: Socks and All ...!	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
13	在宅看護	Unit 12: The Dirtiest House in Town	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
14	看護師に対する信頼感	Unit 13: Hiding a Tender Soul	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
15	患者の秘密を守る	Unit 14: Keeping Secrets	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV			担当教員	松尾 文子		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。						
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。						
関連科目	英語 I, II, III						
テキスト	<i>A Healthy Mind, A Healthy Body.</i> Ishikawa E., Sano J. et al. (朝日出版社, 2014)						
参考書							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの単語の小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。				
	レポート						
	小テスト	20					
	提出物						
その他	10						
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの練習問題にある Writing を提出することが望ましい。						
課題に対するフィードバックの方法	中間試験は解答例を配布し、各自確認してもらう。基準点に達しなかった学生には課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせを授業中に行い、Teams に関連情報をアップする。Writing 提出者には、コメントを付して返却する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	健康とは	Introduction / Unit 1: What is health?			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
2	美容整形の影響	Unit 2: Reconstructing lives			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
3	災害後の心のケア	Unit 3: Mental health disaster relief not always clear cut			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
4	看護師と介護福祉士の不足	Unit 4: Japan needs more nurses and care-workers			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
5	ヨガの効能	Unit 5: Yoga's spiritual balance may boost health			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
6	カロリー計算	Unit 6: Do you count calories?			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
7	ガン発生率の高騰	Unit 7: Clinical oncology			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験			試験勉強・次回の授業の予習 (4時間)		
9	禁煙	Unit 8: It's never too late to quit smoking			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
10	生活習慣の見直しと糖尿病	Unit 9: Overcoming diabetes with diet and exercise			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
11	子供の肥満率の指標	Unit 10: Body mass index may not reflect child obesity			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
12	再生医療と iPS 細胞	Unit 11: The future of regenerative medicine and iPS cells			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	高度医療を支える	Unit 12: Need a nurse? You may have to wait	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
14	高齢化社会の負担	Unit 13: Preparing for a future that includes aging parents	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
15	ストレス解消法	Unit 14: Simple everyday ways to de-stress and relax	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)

授業科目	生活環境論 Environmental Life Science			担当教員	江本 匡		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎				
授業目的	人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。						
到達目標	1.自然環境、生活環境と健康との関わりの概略を説明できる。 2.生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。 3.ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。 4.生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。 5.情報の収集・利活用と健康の関わりが説明できる。 6.地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。						
関連科目	高校レベルの生物、化学などの知識を基盤とするので各自復習をしておくこと。						
テキスト	佐々木胤則編著「変化する環境と健康 改訂版」(三共出版)						
参考書	テキストの章末を参照する。最新の資料は講義中に適時提示する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	60	目標の到達状況を、授業での小テストと期末試験により評価し、それぞれの評価割合は、小テスト(4回予定)40%、定期試験60%とする。なお、評価は5段階評価とし、総合で60%以上を単位認定の基準とする。				
	レポート						
	小テスト	40					
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	受講内容は社会情勢との関係性もあるので、ニュースなどの情報に気を配ることを望む。						
課題に対するフィ ードバックの方法	小テスト結果は次回テスト時に結果をフィードバックする。						
実務経験を 活かした教育内容	これまでの環境関連の研究や業務経験を授業内容に展開していきたい。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	「健康のとらえ方」：生活環境と健康について	自然環境は生命活動が加わって時間と共に相互にゆっくりと変化してきたが、有史からは人間活動の影響を受けて、急速に変化した健康への考え方について概要する。文明・近代史を環境と人との相互関係から捉え、健康観の変化と感染症との関係を探る。(第1章)				事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。総論の健康の捉え方を読み、WHOがこの数十年に取り組んできた活動を整理する。	
2	「環境と健康」：近年の動向	健康に関わる事項として、感染症との戦い、増え続ける生活習慣病、環境破壊による健康被害、増大する心の病、困窮する健康福祉体制の現在までの状況を整理し、今後の方向を探る。(第2章)				第2章「環境と健康」に関する近年の動向を読み、将来につながる問題点をあげる。	
3	「環境刺激に対する調節と適応」：恒常性、ストレス対応	環境刺激に対する調節・適応という事象を調節の局面から取り上げ、調節・適応の負の作用として、生活習慣病やアレルギー疾患増大について考える。ストレス刺激に対する脳のホメオスタシス機能からメンタルヘルスについて解説する。(第3章)				第3章生活環境における具体的なストレス場面を分類してみる。	
4	「水、空気と健康問題1」：汚染と健康問題の変遷 「1回目小テスト」	生命にとっての水の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。(第4章) 第1回～第3回までの内容での小テストを実施する。				近年の水質公害問題の経緯と問題点をまとめる。(第4章) 第1回～第3回までの資料を確認しておく。(試験持込可)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	「水、空気と健康問題2」:汚染と健康問題の変遷 「リスク評価とリスクマネジメント」:リスクの考え方と理解	生命にとっての空気の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。(第4章) 日常生活における「リスク」の考え方、捉え方を学び、化学物質の健康への影響について理解する。(第5章)	近年の大気公害問題の経緯と問題点をまとめる。(第4章) リスク・リスクマネジメントについて事前に教科書を読んでおく。(第5章)
6	「生体防御と免疫システム」:免疫システムの理解	非自己から自己を守る免疫を生体防御システムとして概説し、ストレスを免疫システムのバランスを崩す因子ととらえ、病気との関連を考察する。(第6章)	免疫システムについて事前に情報を取っておく。
7	「人畜共通感染症、新興感染症」:感染症の理解 「2回目小テスト」	人畜共通感染症、新興感染症を理解する。(第7章) 第4回～第6回までの内容での小テストを実施する。	コロナウイルス感染症について調べておく。 第4回～第6回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
8	「人畜共通感染症、新興感染症」:新興感染症	各種の新興感染症について特性を概説し、予防や対策について考える。(第7章)	各種新興感染症について教科書(第7章)を読んでおく。
9	「放射線の環境拡散と健康影響」:放射線による健康影響の理解	放射線の特性とその健康影響の概要を理解して、放射性物質の管理について考える。(第8章)	放射線によるヒトへの影響について調べる。
10	「アレルギー性疾患の増加とその背景」:アレルギー疾患の理解	文明病とされるアレルギーについて、アトピー素因と生活環境の変化、アレルギー発症のメカニズムを理解する。(第9章)	アレルギーの発症メカニズムと化学物質過敏症について調べる。
11	「からだのリズムと健康、生活習慣病」:生体リズム等の理解 「3回目小テスト」	からだのリズムと生体リズム、生活リズムとの関連をとらえ、代謝リズムの破綻として生活習慣病を再考する。(第10章) 第7回～第10回までの内容での小テストを実施する。	好ましい生活習慣について教科書(第10章)を読んでおく。 第7回～第10回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
12	「環境におけるポジティブファクターと癒し」:生活環境における癒しと植物や風景の影響	人の生活圏の拡大、大規模開発によって生物種が急速に減少して多様性を失うことの問題点を解説し、それらを保護・保全しようという活動につながる癒しとビオトープについて考える。(第11章)	生物多様性を失うことの問題点を考える。
13	「情報化社会におけるコンピューターの利活用と健康」:VDT作業と健康の理解	パソコンワークでの身体影響、情報伝達の歪みや不均衡、錯誤はQOLや心身の健康にも関連していること理解する。(第12章)	OA機器とメンタルヘルスとの関係を調べる。
14	「予防原則から考える環境と健康」 「4回目小テスト」	リスクアセスメントと予防原則の考え方を理解する。(第13章) 第11回～第13回までの内容での小テストを実施する。	予防原則の適用事例について教科書(第13章)を読んでおく。 第11回～第13回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
15	「待ったなしの地球温暖化対策」:地球温暖化の進行と健康問題について	人為活動による地球温暖化が急速に進んでいることの観測データや今後の推測を紹介し、気候変動に伴う生活環境の変化が人の健康に与える影響を検討し、対応を提案する。また、リスクへの対応について考え方を理解する。(第14章)	温暖化による健康への影響について考える。

授業科目	教育学 Education		担当教員	加藤 隆			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期		選択・必修	選択			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○				
授業目的	人間の可能性と社会における教育の役割について歴史と現状から知見を提供するとともに、生涯学習社会における家庭教育や学校教育及び市民教育の課題と解決方向についてヒントを示す。						
到達目標	受講者自身が今後経験する生涯学習の場面において自立した学習者として成長していく手がかりを得ること。						
関連科目	教育原理 教職概論 健康教育学 倫理学						
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。						
参考書	適宜、アナウンスする						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	学校教育と家庭教育、生涯教育、地域生活における現状と課題を中心に試験を課し、理解度及び文章表現力を評価する。(70%) 授業態度及びレポート時や講義後の感想文などを「その他」対象とし、理解の努力を評価する。(30%)				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他	30						
履修上の留意事項	なぜ? どうして?という自身のつぶやきや問題意識を大切にし、意見交流やコメント交流を重視します。						
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、今日の家庭教育や学校教育について理解しやすいように授業を行う。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	近代の教育思想(1)	ルソーの「子供の発見」、発達思想、充実した生涯の提起				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：近代の教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2時間)	
2	近代の教育思想(2)	市民革命とコンドルセの家庭観・学校観・学問観				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：コンドルセの教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2時間)	
3	「新教育」の思想	学びの転換：デューイの思想と実験。子ども研究の始まり				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：学びの転換となったデューイの思想について考察も交えてレポート作成する(2時間)	
4	近代学校のあゆみ	ルターの義務就学論 アダム・スミスの公教育観 国家の学校政策関与				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：取り上げた教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2時間)	
5	日本の文明化と教育	西洋からの学び 福沢諭吉の一身独立の思想				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：明治期の教育状況についてまとめる。紹介した参考図書に目を通す(2時間)	
6	日本の学校制度の成立	森有礼の啓蒙と国家主義 内村鑑三の諭吉批判 ルソーと大正自由教育				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：授業で触れた三つのテーマについて、考察を交えてノートにまとめる(2時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	戦後日本の教育	「真の個人主義」、「高度成長」と競争教育、市民育成棚上げ	事前：新聞記事などからテーマの資料に目を通す（2時間）事後：自身の経験も踏まえて、講義で取り上げた内容についてノートにまとめる(2時間)
8	教育環境の変化と青年	「冷戦」以後の世界と青年。能力観・学校観の転換への期待	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2時間）事後：これまでの講義で取り上げたテーマから一つを選び、自身の見方の変化も含めてレポートにまとめる。（2時間）

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity			担当教員	畠山 瑞樹		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎				
授業目的	<p>文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。</p> <p>この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。</p>						
到達目標	<p>1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。</p> <p>2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。</p>						
関連科目	高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。						
テキスト	なし（プリント配布）						
参考書	講義時適宜紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		<p>レポート 60%+小レポート 40%。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。レポートは、すべての講義終了後かつ定期試験期間前に、提出期限を定める（最終講義日から1週間後を予定）。</p> <p>評価の観点は到達目標に示した2点。講義内容を理解し、日本の文学や文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、またそれらを基に、自らの考察を深めそれを表現できているかを評価する。</p>				
	レポート	60					
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	<p>1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。</p> <p>2.進捗により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。</p>						
課題に対するフィードバックの方法	<p>1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。</p> <p>2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。</p>						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス 古典文学と現代	ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）		
2	古典文学と昔話	視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）		
3	古典文学のはじまり	身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）		
4	古典文学の虚実	病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）		
5	古典文学の変遷①	享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	古典文学の変遷② 古典文学と文化①	享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
7	古典文学と文化② 古典文学と伝説①	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
8	古典文学と伝説②	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

授業科目	国際社会論 International Sociology		担当教員	翁 康健			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期		選択・必修	選択			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎	○			
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。						
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人をを目指す。						
関連科目	「現代社会論」の知識が基盤である。						
テキスト	特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。						
参考書	1.石井香世子編「国際社会学入門」(ナカニシヤ出版) 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門—トランスナショナリズムという視点」(有斐閣コンパクト) 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」(有斐閣)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		定期試験(50%)と講義内で実施するミニ・レポート(50%)から目標の到達状況を評価する。				
	レポート	50					
	小テスト						
	提出物	50					
その他							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。 						
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭(あるいは末尾)で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	オリエンテーション・グローバリゼーション	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバリゼーション ・トランスナショナリズム 			<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習:シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること(2時間) ・事後学習:関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみる(2時間) 		
2	国境を越える人—移民と無国籍者の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「移民」とはだれか ・国籍と市民権 ・グローバル化と無国籍者、身分証明 			<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習:第2回講義資料「国境を越える人—移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと(2時間) ・事後学習:移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみる(2時間) 		
3	グローバル化時代の難民・国内避難民	<ul style="list-style-type: none"> ・「難民」とはだれか ・グローバル化時代の難民 ・難民の越境化をめぐる議論 ・日本における難民問題 			<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習:第3回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと(2時間) ・事後学習:難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること(2時間) 		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	グローバル化がすすむ日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・越境する家族 ・トランスナショナル教育 ・医療におけるグローバル化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 4 回講義資料「グローバル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめること（2 時間）
5	グローバル時代の観光・民族・宗教の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること（2 時間）
6	社会問題からみるローカルとグローバルの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみる（2 時間）
7	国際格差と貧困問題	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること（2 時間）
8	全体のまとめ・補足	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ ・期末レポートの案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間）

授業科目	社会貢献と活動 Volunteer and Social Responsibility		担当教員	岩本 希			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期		選択・必修	選択			
授業形態	演習		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○				
授業目的	<p>政府は「個人がどのような状況に置かれても、自分らしく活躍できる社会」を望ましい社会像として打ち出し、その背景に『地域共生社会』というコンセプトを掲げている。超高齢社会が進行し地域のつながりが希薄化した現代において住民同士の支え合いは不可欠とされ、2025年までの構築を目指している「地域包括ケアシステム」でもボランティアセクターは重要な存在感を示している。地域共生社会が目指すのは、対象者ごとの保健・医療・福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ、支援者と被支援者という二律対抗軸からの脱却へと転換していくことにある。本科目では保健・医療・福祉の枠組が変更される中で、ボランティアの意義を踏まえ、多種多様なボランティア活動が地域にどう関わり、どう地域を変え、支えているのかについて学ぶ。特に近年重要視され話題となっている世代を問わない居場所の課題や本学に関連する保健、医療、栄養、福祉などの領域とボランティア活動の関連を学び、地域で暮らす住民が抱えるニーズを知り、行政・地域住民・各種事業所及び専門職等との連携についても学んでいく。また、専門職としての視点のみならず、若者の立場で社会にある問題を捉えどのように解決に貢献できるか自身の考えを深めることを目的とする。</p>						
到達目標	<p>1. ボランティア活動の意義を正しく理解するとともに、ボランティア活動を通して当事者のニーズを把握できること。 2. 地域住民や当事者のニーズに対して、専門職のあり方やネットワークの構成などの要件について学び、ボランティアの役割・あり方・限界などについて理解できること。 3. 現代社会のニーズやボランティアの多様性を理解し、これからの社会に求められているボランティア像や社会貢献の形を自分なりに描くことができること。</p>						
関連科目	「現代社会論」「地域社会文化論」「国際社会論」につながる科目である。						
テキスト	内容に沿った資料を随時配布する。						
参考書	<p>1. 柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論～「広がり」から「深まり」へ～」（みらい）2010 2. 前林清和著「Win-Winの社会をめざして」（晃洋書房）2009 3. 内海成治、中村安秀著「新ボランティア学のすすめ」（昭和堂）2014</p>						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	<p>目標の到達状況を下記の方法で評価する。 講義の際のレポートや発表、グループワークでの役割遂行など授業態度を点数化し、50%を上限として評価します。並びに定期試験も50%を上限とし、授業態度・試験の得点を合わせて総合的に評価します。</p>				
	レポート	30					
	小テスト						
	提出物						
その他	20						
履修上の留意事項	グループワーク（演習）、ゲストスピーカー講義のほか、ボランティア実践を予定しています。各授業の前後に30分の予習、30分の復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法							
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	社会貢献、ボランティアとは？	オリエンテーション 自分のボランティア経験を発表 ボランティアに対する自分なりの理解				ボランティア経験を振り返ること	
2	ボランティア活動の沿革	諸外国でのボランティア活動の歴史と我が国でのボランティア活動の歩みを学ぶ。				北海道で活動しているボランティア団体について調べてくること	
3	ボランティア活動の内容	ボランティア活動の内容を、領域別、対象別、方法別に検討する。				自分がしてみたいボランティア活動を考えること	
4	社会福祉協議会とボランティア	社協の幅広いボランティア活動について学ぶ。				社協の仕事をHPで確認すること	
5	医療・高齢者福祉とボランティア	医療・高齢者福祉の分野でのボランティア活動について学ぶ。 (ゲストスピーカー 木村 洋美氏)				医療・高齢者福祉で実際に行われているボランティア活動を調べてくること。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	児童福祉・障害者福祉とボランティア	児童分野・障害者分野でのボランティア活動について学ぶ。	児童・障害者分野で実際に行われているボランティア活動を調べてくること。
7	NPO・NGO とボランティア	NPO や NGO のボランティア活動、国際ボランティアなどについて学ぶ。	ボランティアを主体的な活動としている NPO 団体を調べてくること。
8	企業・労働組合とボランティア	企業のCSR、労働組合のボランティアの取組、様々な組織の社会貢献活動について学ぶ。	企業が取り組んでいる社会貢献活動について1つ調べてくること。
9	環境・災害ボランティア	環境ボランティア、災害ボランティアについて学ぶ。	環境ボランティア、災害ボランティアに取り組む団体をそれぞれひとつ挙げること
10	ボランティア実習	1日ボランティア体験をする。	実習先に関する情報を調べておくこと。
11	ボランティア体験を振り返る	ボランティア体験から得られた知見を発表し振り返る。	ボランティア体験をまとめておくこと。
12	ボランティアのコーディネート	ボランティアをコーディネートする技術について学ぶ。	ボランティアの担い手について調べておくこと。
13	ボランティア組織の運営	ボランティア組織の立ち上げ、運営、資金、PRなどについて学ぶ。	助成金情報を調べること。
14	現代社会とボランティア	現代社会における諸問題とボランティアのあり方を考える。	現代社会で支援が必要な人について考察すること。
15	私たちのボランティア論	自分たちが理想的と考えるボランティアのあり方をまとめ、プレゼンテーションする（具体的なボランティア提供を前提として）。	ボランティアのための事業について企画を考えること。

授業科目	薬理学 Pharmacology		担当教員	町田 拓自			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	薬物治療においては、医師・薬剤師・看護師の三者の連携が重要である。看護師は患者と接する機会が最も多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。本科目では、薬物に対する生体側の応答及び治療効果、有害作用の機序を学習し、その上で様々な疾患に対する治療薬についての基礎的知識の習得を目指す。						
到達目標	1.医療における薬物治療とは何かについて理解する。 2.薬の作用形式、体内動態について理解する。 3.薬効に影響する因子、薬物の有害作用について理解する。 4.臓器別、疾患別に使用される薬物を列挙できるようにする。 5.各薬物の薬理学的性質、副作用を説明できるようにする。						
関連科目	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、病態学、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱが関連科目である。						
テキスト	吉岡光弘、泉 剛、井関 健 著「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 第15版」(医学書院)						
参考書	井上智子、窪田哲朗 編「系統看護学講座 別巻 臨床薬理学」(医学書院) 荻田喜代一、首藤誠 編「看護学テキスト 薬理学」(南江堂)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。定期試験：80% 小テスト：20% 全講義内に計4回、小テストを提示する。(各5%、合計20%)				
	レポート						
	小テスト	20					
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	薬理学を習得するには、事前に形態機能学、病態学等を学んでおく必要がある。1年次に習得したこれらの関連科目を事前に復習しておくこと。各授業の前に2時間の予習、後に2時間の復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、Web上で行う。テスト内容を送信すると、点数及び解説が閲覧できる。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	総論1：薬物治療の目指すもの	<ul style="list-style-type: none"> 薬を用いて病気を治療する意義について理解する。 治療に用いる薬物に求められる基本的性質を理解する。 			事前学習：該当範囲についてテキストを読んでおく(2時間)。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく(2時間)。		
2	総論2：薬はどのように作用するのか	<ul style="list-style-type: none"> 薬理作用の基本形式について理解する。 薬の治療域と作用点について理解する。 薬の投与経路について理解する。 			事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく(2時間)。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく(2時間)。		
3	総論3：薬はどのように体内をめぐるのか 薬効に影響する因子	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を理解する。 生物学的半減期と薬物血中濃度の意義について理解する。 年齢、遺伝により薬効に影響を受けることを理解する。 薬物相互作用を理解する。 			事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく(2時間)。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく(2時間)。		
4	総論4：薬物の有害作用はなぜおこるのか、薬の管理と新薬の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 過量投与による有害作用について理解する。 薬物使用の有益性と有害性について理解する。 ある臓器に特有の有害作用をおこす薬について理解する。 管理に注意を要する医薬品について理解する。 新薬の開発の流れを理解する。 			事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく(2時間)。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	各論1：抗感染症薬	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症治療に関する基礎事項を理解する。 ・各抗菌薬の作用機序、副作用について理解する。 ・特殊な感染症の治療薬について理解する。 ・感染症の治療における問題点を理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
6	各論2：抗がん薬、免疫治療薬	<ul style="list-style-type: none"> ・がん治療に関する基礎事項を理解する。 ・各抗がん薬の作用機序、副作用について理解する。 ・免疫反応のしくみについて理解する。 ・免疫抑制薬、増強薬について理解する。 ・予防接種薬について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
7	各論3：抗アレルギー薬・抗炎症薬	<ul style="list-style-type: none"> ・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬について理解する。 ・炎症のしくみと抗炎症薬について理解する。 ・関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬について理解する。 ・片頭痛治療薬について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
8	各論4：末梢での神経活動に作用する薬物	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経系について理解する。 ・交感神経作用薬について理解する。 ・副交感神経作用薬について理解する。 ・筋弛緩薬、局所麻酔薬について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
9	各論5：中枢神経系に作用する薬物 - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・全身麻酔薬について理解する。 ・催眠薬、抗不安薬について理解する。 ・統合失調症治療薬について理解する。 ・抗うつ薬について理解する。 ・パーキンソン症候群治療薬について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
10	各論6：中枢神経系に作用する薬物 - 2、心臓・血管系に作用する薬物 - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・抗てんかん薬について理解する。 ・麻薬性鎮痛薬について理解する。 ・高血圧治療薬について理解する。 ・狭心症治療薬について理解する。 ・うっ血性心不全治療薬について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
11	各論7：心臓・血管系に作用する薬物 - 2	<ul style="list-style-type: none"> ・抗不整脈薬について理解する。 ・利尿薬について理解する。 ・脂質異常症治療薬について理解する。 ・血液に作用する薬物について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
12	各論8：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系に作用する薬物について理解する。 ・消化器系に作用する薬物について理解する。 ・生殖器系に作用する薬物について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
13	各論9：物質代謝に作用する薬物	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンおよびホルモン拮抗薬について理解する。 ・治療薬としてのビタミンについて理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。
14	各論10：皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚に使用する薬物の特徴を理解する。 ・眼科用薬について理解する。 ・救急蘇生時に用いられる薬物について理解する。 ・救急・急変時の症候に対して用いられる薬物について理解する。 ・急性中毒に対する治療薬について理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく。
15	各論11：消毒薬・輸液剤および輸血製剤	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒薬とは何かを理解する。 ・輸液とは何かを理解する。 ・おもな輸液剤を理解する。 ・輸血とは何かを理解する。 ・主な輸血製剤を理解する。 	事前学習：該当範囲についてテキストを予習しておく（2時間）。事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題を解いておく（2時間）。

授業科目	臨床心理学 Clinical Psychology		担当教員	松岡 紘史			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○			
授業目的	臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を概説するとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を解説しながら、最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。						
到達目標	行動理論の観点から問題にアプローチする方法を学習するとともに、医療現場で実際の患者さんに行動理論の考え方がどのように応用されているかを理解することを通して、自らの身近な問題や看護実践においても行動理論の考え方を応用できるようになることを目標とする。						
関連科目	1年前期の心理学、2年の成人看護活動論Ⅰ、4年前期の慢性看護論と密接に関連する。						
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。						
参考書	坂野雄二ら「ベーシック臨床心理学」(有斐閣) 鈴木伸一ら「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」(北大路書房) 松岡紘史・安彦善裕「歯科医師・歯科衛生士のための認知行動療法―チェアサイドで困ったときに」(医歯薬出版)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	講義中に授業内容に応じた知識理解を確かめる小テストを合計8回実施する。試験では講義内容の知識理解とともに、臨床心理学の知識を実際の問題に結びつけることができるかを評価する。				
	レポート						
	小テスト	30					
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	講義で学んだ内容がどのように実践できるかを考えながら受講すること。						
課題に対するフィードバックの方法	課題の結果のフィードバックは、Formsを用いて回答提出された際に実施される。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者(公認心理師)の立場から、医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりませながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	臨床心理学とは	臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。				配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する(3時間)。	
2	アセスメント	臨床心理学で用いられる種々のアセスメント方法について理解する。				配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する(3時間)。	
3	臨床心理学の諸理論	臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異同について理解する。				配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する(3時間)。	
4	行動理論：学習理論	行動理論の基盤となる学習心理学の基礎理論とその臨床応用について理解する。				配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する(3時間)。	
5	行動理論：機能分析	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方1つである機能分析を理解する。				配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する(4時間)。	
6	行動理論：行動のコントロール	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、行動のコントロールに関するアプローチを理解する。				配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する(4時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	行動理論：認知のコントロール	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する（4 時間）。
8	行動理論：気分・感情のコントロール	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する（5 時間）。

授業科目	疾病治療論Ⅰ Disease Therapeutics			担当教員	家子 正裕、千葉 仁志		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	臨床上重要な内科系疾患について、系統別に病態、診断法、治療法について学修する。						
到達目標	1. 疾患が生じる原因と病態について説明できる。 2. 疾患の主な診断法について説明できる。 3. 疾患の治療法と注意点について説明できる。						
関連科目	1年前期に履修した形態機能学Ⅰ、1年後期に履修した形態機能学Ⅱ、感染免疫学、病態学と密接に関連する。						
テキスト	浅野嘉延、吉山直樹 編集「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)【電子テキスト】						
参考書	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2].[3].[4].[5].[6].[7].[8].[9].[11].[13].[14]」(医学書院)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。 家子 70% 千葉 30%				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	疾患を理解するには、形態機能学の基礎的知識が必要となるので、テキスト内にある「解剖と生理」で今までの知識を復習し、更に事前に「症候」「検査」の項目を読んでから、講義に臨むこと。理解できない点は、講義後に教室やオフィス又はチャットにて教員に質問して解決すること。レジュメやテキストの情報量が多いので、十分な時間をかけて事前学習・事後学習を行い、さらに反復学習することが大切である。						
課題に対するフィードバックの方法	適宜、内科的疾患についての重要なポイントを実力問題集として Web 上に公開するので講義資料及びテキストを参考にして自分で解答すること。一定期間後に、模範解答と解説を公開するので、自分の解答を必ず確認し、理解を深めることが必要です。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上に必要な内科学的知識について理解しやすく授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (家子)	科目ガイダンス 呼吸器疾患と治療	呼吸器疾患の分類と呼吸器感染症 かぜ症候群とインフルエンザ、肺炎、肉芽腫性病変と肺血栓・塞栓症、肺結核、サルコイドーシス、静脈血栓塞栓症、肺癌			事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)		
2 (家子)	循環器疾患と治療 (1)	心臓の疾患と治療 先天性心疾患、心臓弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、不整脈、心不全			事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)		
3 (家子)	循環器疾患と治療 (2)	血管の疾患と治療 高血圧症、動脈硬化症、大動脈解離、大動脈瘤、大動脈炎症候群、末梢動静脈疾患			事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)		
4 (家子)	消化器疾患と治療 (1)	食道、胃・十二指腸の疾患と治療 胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア、食道アカラシア、食道静脈瘤、マロリー・ワイス症候群、食道癌、急性・慢性胃炎、胃アニサキス症、消化性潰瘍、胃癌			事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)		
5 (家子)	消化器疾患と治療 (2)	大腸・肛門の疾患と治療 薬剤性大腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎、大腸ポリープ、大腸癌、過敏性大腸炎、虫垂炎、腸閉塞、痔核			事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)		
6 (家子)	肝臓・胆嚢・胆道・膵臓の疾患と治療	急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、アルコール性肝障害、脂肪肝、肝癌、胆石症、胆嚢ポリープ、急性・慢性膵炎、膵癌			事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (千葉)	代謝性疾患と治療 (1)	糖代謝、ビタミン代謝疾患と治療 糖尿病、ビタミン欠乏症・過剰症	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
8 (千葉)	代謝性疾患と治療 (2)	脂質代謝、尿酸代謝疾患と治療 脂質異常症、痛風、メタボリック症候群、骨粗鬆症	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
9 (千葉)	内分泌疾患と治療 (1)	視床下部・下垂体疾患・甲状腺疾患と治療 視床下部・下垂体腫瘍、下垂体機能低下症、尿崩症、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
10 (千葉)	内分泌疾患と治療 (2)	副甲状腺疾患・副腎疾患と治療 副甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
11 (家子)	腎・泌尿器疾患と治療	急性糸球体腎炎、IgA腎症、糖尿病腎症、ネフローゼ症候群、腎不全、腎盂腎炎、腎癌、尿路結石症、急性膀胱炎、前立腺肥大症、前立腺癌	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
12 (家子)	脳・神経・筋疾患と治療	脳血管障害、神経変性疾患、脱髄性疾患、末梢神経疾患、重症筋無力症、筋疾患	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
13 (家子)	血液疾患と治療	赤血球疾患、出血性疾患と治療 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少症、凝固因子異常、播種性血管内凝固症候群	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
14 (家子)	眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と治療	結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症、網膜色素変性症、鼻出血、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、中耳炎、メニエール病、扁桃炎、咽頭炎、舌癌、咽頭癌・喉頭癌、熱傷、褥瘡	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)
15 (家子)	膠原病・アレルギー疾患と治療 定期試験ガイダンス	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、アレルギー疾患 定期試験について	事前：該当部分をテキストで予習する(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノート等にまとめる(2時間)

授業科目	疾病治療論Ⅱ Pathophysiology and Surgical Treatment		担当教員	深井 原			
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	外科系疾患の理解に必要な解剖学、生理学、生化学を概説し、疫学、外科的診断学、手術手技、治療過程を広く学ぶ。また、講義を通じて個別の外科治療の臨床経験を疑似体験し、外科領域の疾病治療を学ぶ。						
到達目標	創傷治療、外科手技、麻酔学など外科治療の基礎と消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、救急医療、移植医療などの概要を理解することを目指す。						
関連科目	疾病治療論Ⅰ						
テキスト	講義時に適宜プリントを配布します。						
参考書	系統看護学講座 臨床外科看護各論（医学書院）、同・総論						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	2/3 以上の出席がない場合、定期試験の受験資格はありません。 外科系疾患に関するレポート課題を出します。定期試験とレポートを併せて、目標の到達状況を評価します。				
	レポート	30					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	講義開始前に各自形態機能学、病態学、疾病治療論Ⅰの該当する疾患を復習すること。重要事項は適宜講義中に示します。授業は欠席しないようにしてください。						
課題に対するフ ィードバックの 方法	試験、レポートともに採点結果を返します。合格点に満たない場合には再試験、レポートの再提出が課されます。膨大な範囲ですが、諦めずにコツコツ学習する以外に方法はありません。Forms で繰り返し演習できる教材を提供するなどの支援を行います。						
実務経験を 活かした教育内容	外科医として、また、臨床上の未解決問題を探索する研究者として、地域医療、救急、高度医療の経験を講義に織り交ぜながら、外科系疾患の病態と治療について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	外科治療の歴史、外科的診断法、創傷治療の原理を理解する	外科の歴史と手術、外科的診断学とは、創傷治療とこれを阻害する因子、手術手技の基本、外傷の分類とその治療について				形態機能学を復習すること（4時間）	
2	麻酔学：局所麻酔と全身麻酔、術中モニターを理解する	手術に必要な局所麻酔、全身麻酔について、麻酔の5大要素、具体的な麻酔法を供覧する				講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4時間）	
3	滅菌法、滅菌法について学ぶ。基本的な外科処置とくに縫合法、ドレナージ、デブリードマン等を理解する。	消毒の歴史と外科手術の進歩、滅菌法の種類と適応について 縫合法、ドレナージとは、デブリードマンの原理について				講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4時間）	
4	消化管手術を理解する	消化器の形態機能と疾病：上部消化管の疾患と外科治療 食道癌、胃癌の手術の実際と術後合併症				講義中に提示される重要ポイントを復習すること 疾病治療学Ⅰの該当箇所を復習すること（消化管の疾患）（4時間）	
5	消化管手術を理解する	大腸の手術 直腸癌と直腸温存術式、人工肛門増設、虫垂炎の手術について				疾病治療学Ⅰの該当箇所を復習すること（消化管の疾患）（4時間）	
6	肝・胆・膵の外科治療を理解する	胆石症の手術：腹腔鏡手術について 肝臓癌の治療と肝切除 膵臓の疾患と外科治療				形態機能学の肝・胆・膵を復習すること（4時間）	
7	呼吸器の外科治療を理解する	肺癌の手術：肺癌の手術適応、開胸手術、胸腔鏡手術 プラ縫縮術について				肺癌の診断、治療を予習すること（4時間）	
8	乳腺の外科治療、内分泌外科を理解する	乳癌の外科治療：進行度と手術術式の選択 甲状腺外科				講義中に提示される重要ポイントを復習すること	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	脳神経外科領域の治療を理解する	脳神経外科領域の代表的疾患、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、脳の外傷、脳腫瘍について	講義中に提示される重要ポイントを復習すること (4 時間)
10	心臓血管外科領域の治療を理解する	先天性心疾患と後天性心疾患の外科治療、開心術の実際虚血性心疾患と大動脈疾患の治療 末梢血管：動脈閉塞、静脈瘤の治療	講義中に提示される重要ポイントを復習すること (4 時間)
11	整形外科の治療内容を理解する	骨折の分類と治療原則 脊椎疾患：椎間板ヘルニア、こり症、脊柱管狭窄症 骨腫瘍とその治療	形態機能学の骨、筋肉を復習すること (4 時間)
12	小児外科の疾患と治療を理解する	ヘルニア、先天性消化管疾患、腸重積症、小児腫瘍の治療 小児外科疾患の特殊性と術後管理	講義中に提示される重要ポイントを復習すること (4 時間)
13	泌尿器手術の実際を理解する	腎臓手術、前立腺、膀胱腫瘍の治療 腎臓移植の実際、血液透析とシャント	講義中に提示される重要ポイントを復習すること (4 時間)
14	臓器移植と人工臓器を理解する	心臓移植手術、腎臓移植手術の実際、移植医療の問題と展望 人工臓器の進歩	講義中に提示される重要ポイントを復習すること (4 時間)
15	救急医療と外科治療を理解する	心肺蘇生法と AED 急性腹症の治療、ショックの分類死の三徴候と脳死判定 トリアージと災害医療	講義中に提示される重要ポイントを復習すること (4 時間)

授業科目	社会福祉論 Social welfare Theory			担当教員	吉田 竜平		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	<p>少子高齢化の進行に伴い、人口減少の段階にある日本では、多くの社会問題が存在している。例えば、高齢者介護、子育て支援、貧困や経済的格差の拡大、社会的孤立・無縁の広まり等である。これらは社会において「一部の特殊な人々」が直面する例外的なものではなく、ライフコースの中で誰もが抱える可能性のある社会的リスクである。そのような「社会生活あるいは人生において個人では解決することが難しい生活問題」への支援や対応策を考え、全ての人々が幸福に暮らすことができるようにすることを志向するのが社会福祉（学）である。</p> <p>本科目では、看護にとって必要と思われる社会福祉の基礎的内容について取り上げ、その理念・機能・対象と支援方法および関連する社会福祉・社会保障制度の概要について学ぶことを目的とする。</p>						
到達目標	<p>①社会福祉の基本概念・理念・機能について理解する。 ②社会福祉における対象と支援方法、課題について理解する。 ③社会保障制度の概要について理解する。 ④社会福祉の専門職について理解する。</p>						
関連科目	「社会貢献と活動」、3年前期「保健医療福祉行政論」に関連する。						
テキスト	なし						
参考書	必要に応じて紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	<p>①提出物（30点）（リアクション・ペーパー・課題） ・目的：授業内容を確認するとともに自身の考えを記述することで理解を深める。 ・内容：授業で学んだ事、それについて履修学生自身がどのように考察をしたのかを記載する。</p>				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	30	<p>②定期試験（70点） 到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 以上、①②の内容を総合して評価する。</p>				
その他							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュース等での社会保障・社会福祉に関連する報道に関心を持つこと。 ・自分自身、家族、友人、知人等の生活（暮らし）と社会福祉のつながりに注目して講義を受けること。 ・私語等、講義の妨げとなる行為には厳しく対処する。 ・毎回、講義レジュメを配布する。 ・社会情勢等により講義展開内容が一部変更になる場合がある。 						
課題に対するフィードバックの方法	提出物に記載されている内容で、全履修学生にフィードバックが必要な事柄については、次回授業内で取り上げる。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	社会福祉の基礎概念①	社会福祉という考え方、ライフステージにおける福祉問題、社会福祉の専門職			授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める		
2	社会福祉の基礎概念②	社会福祉援助の価値、援助原理、対象とニーズ、ノーマライゼーション			授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める		
3	少子高齢化の動向と社会福祉①	高齢化、介護問題、家族・地域の変化			授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める		
4	少子高齢化の動向と社会福祉②	少子化、子育て支援、ワークライフバランス、ジェンダー、非正規雇用			授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める		
5	社会福祉の援助と方法	ソーシャルワークの理論・方法・価値・倫理、エンパワメント、ストレングスケアマネジメント			授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	社会保障制度の概要	社会保障の目的と機能、社会保険方式と公費負担方式、日本の社会保障制度の体系、ナショナルミニマム	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
7	貧困と社会福祉	貧困概念、貧困率、子どもの貧困、生活保護	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
8	年金保険制度	公的年金制度の概要・近年の制度改正・課題	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
9	医療保険制度①	医療保険制度の概要、健康保険、国民健康保険、診療報酬制度	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
10	医療保険制度②	近年の医療制度改革の動向と課題	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
11	介護保険制度①	介護保険制度の概要	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
12	介護保険制度②	近年の制度改革の動向と課題、地域包括ケア	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
13	障害者福祉	障害概念、基本理念、関係法律、障害者総合支援法、障害者の権利条約、リハビリテーション	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
14	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の理念とサービス、児童養護施設、子育て支援、子どもの権利、子ども虐待の現状、家族支援	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
15	地域福祉	地域福祉の理念と支援、地域共生社会、コミュニティケア、地域福祉活動、まちづくり	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める

授業科目	生命倫理 Bioethics			担当教員	森口 眞衣		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP5	DP6
			◎	○			
授業目的	現代の生命倫理に関する一般的問題について、自身の日常的な経験と倫理的判断の関係を理解することにより、基本的な視点や方法を身につける。また、人や生命についての概念の曖昧さを実感し、立場によって異なる見解を受け入れ尊重できる姿勢を養う必要性はどこにあるのか、倫理的議論が展開された歴史的背景を理解することにより、倫理原則と基礎理論、判断の基準、生命の尊厳についての理解を深める。						
到達目標	我々が日常生活で無意識に直面している倫理的問題に対し、自分が適切だと考える判断を下すことができ、さらにその判断の理由を述べるようになる。また、ひとりの人間として自分だけでなく他者の立場も尊重すること、価値観に基づく見解や判断を提示することの重要性を理解できるようになる。						
関連科目	(必修) 倫理学 (選択) 地域社会文化論、法と人権						
テキスト	特に指定しない。スライドと配布資料を用いて展開する。						
参考書	必要があればそのつど紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	40	毎回の講義終了時、授業内容と関連する日常経験や仮想事例を用いた思考実験によるアンケートレポート形式の復習課題 (30%)、および授業内容に関するリアクションコメント (30%) の提出を課す。試験では課題内容を踏まえ設問要求に応えた自身の意見を展開できているかという観点で評価する。				
	レポート	30					
	小テスト						
	提出物	30					
その他							
履修上の留意事項	倫理的判断の提示には自分の考えを適切な言葉で述べるのが重要になる。授業中の課題では文章を書く機会を多く設定しているので、日常生活においても自分の意見を適切な文章で述べられるよう意識すること。各授業の前後に 1～2 時間の予習・1～2 時間の復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	2 回目以降各回の講義冒頭で、前回講義時終了時に提出された復習課題に対する履修者の解答パターンや考察傾向の分析を提示する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	日常と倫理的判断の関係	倫理的判断は人々の立場や主張の方向性と密接な関係があることを踏まえ、多様性を尊重するという目的に沿う生命倫理での使いどころを理解する。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出		
2	倫理的判断に必要な具体的な原則	日常生活や臨床現場で求められる倫理的判断の根拠や着眼点となる倫理原則について、その必要性和内容を学んだうえで、実際の適用の難しさを考える。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出		
3	命の判断：それは「人」ですか？	判断主体となる自己の曖昧さを、医学や科学技術の進歩によって新たに出現した様々な「人」を決める判断基準を通して理解する。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出		
4	命の判断：いまは「健康」ですか？	人が「老いる」とはどういうことか、「健康」と「病気」はどう違うのか、人間の身体における様々な変化の境界について考える。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出		
5	命の判断：これも「殺害」ですか？	科学的医学の発展に伴う「生命」概念の問題を、生殖医療の背景となる歴史的・社会的側面での変遷を通して理解する。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出		
6	命の判断：どれが「食物」ですか？	人が生きるうえで「よいもの」を目指した努力の結果「悪いもの」が作り出されてしまうのはなぜなのか、善悪の価値づけについて考える。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	命の判断：どちらが「大切」ですか？	社会では「人の命を守る」ことを目標としながら実際には逆のことが起きてしまう矛盾について、歴史的・理論的変遷の決着点を通して理解する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
8	他者の価値観尊重とは	これまでの考察の結果をふりかえり、自分の判断と他者の判断の相違点や新たな気づきの分析を通して、医療人として多様な価値観の理解が患者理解に有益となる可能性を考察する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

授業科目	看護技術論Ⅱ Fundamentals of Nursing Skill II		担当教員	首藤 英里香、本吉 明美、園田 典子、 横山 桂子			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	演習		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	<p>本科目では、看護を実践するための科学的な方法である看護過程について、概念と意義、そのプロセスの基本について学ぶ。また、対象者の生活と健康を全人的にアセスメントするためのヘルスアセスメントの基本的な技術について、形態機能学の知識を活用しながら演習を通して学ぶ。さらに、紙上事例を用いた看護過程の展開において、クリティカルシンキングを活用しながら看護の必要性を根拠に基づき判断し、対象者の状況に応じた計画を立案し、実施・評価する一連の方法と看護記録について学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な判断能力、問題解決能力を高めることをねらいとする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの目的と方法について説明できる。 ヘルスアセスメントの基本的な技術について実施できる。 看護実践における看護過程の意義について説明できる。 看護実践における看護過程の各側面（アセスメント、看護問題の明確化、計画、実施、評価）とその要素について説明できる。 紙上事例を用いてアセスメント、看護問題の明確化、計画（目標・成果の設定、具体策の立案）、実施（模擬実践）、評価の過程を展開できる。 看護記録の目的および患者情報の取り扱いについて説明できる。 						
関連科目	看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅲ、援助関係論、看護倫理、看護基礎実習Ⅱ						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 深井喜代子 編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」（メヂカルフレンド社） 深井喜代子 編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」（メヂカルフレンド社） 稲葉佳江 他編「看護ヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社） 						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院） 山内豊明「フィジカルアセスメントワークブック」（医学書院） 日野原重明編「フィジカルアセスメント」（医学書院） 堺章「目でみるからだのメカニズム」（医学書院） 三木明徳監修「人体の構造からわかる看護技術のエッセンス」（医歯薬出版株式会社） 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」（日本看護協会出版会） R.Alfaro-LeFevre（本郷久美子監訳）「基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版」（医学書院） 江川隆子編「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版」（ヌーヴェルヒロカワ） 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	定期試験では、筆記試験の解答状況によりヘルスアセスメントおよび看護過程に関連する知識の理解度を評価する（50%）。 提出物（50%）は、「ヘルスアセスメント」は演習に関する記録物について、提出状況と記載内容によって評価し（20%）、「看護過程」は紙上事例をもとに看護過程の展開の達成度を評価表に基づいて評価する（30%）。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	50					
その他							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 学習の主題ごとに提示される予習・復習を必ず行い、授業に臨んでください。 本科目では全ての演習項目を体験し、課題を提出しなければなりません。演習を欠席したまま補充学習を行っていない場合は単位認定の対象外となります。 						
課題に対するフィードバックの方法	提出物は、原則、返却時にコメントを記載してフィードバックを行います。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら理解できるように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (首藤)	ガイダンス、ヘルスアセスメント(1)	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの概念・目的、共通技術 健康歴聴取の目的と方法 一般状態の観察の目的と方法 				事前学習：①事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする②学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 (園田)	ヘルスアセスメント(2)	心血管系のアセスメントの目的と方法	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
3 (首藤)	看護過程 (1)	看護実践と看護過程、紙上事例の紹介	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(1時間)
4 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント(3) 【演習】健康歴のインタビュー	健康歴のインタビューを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
5 (園田)	ヘルスアセスメント(4)	肺・胸郭、腹部のアセスメントの目的と方法	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
6 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント(5) 【演習】心血管系のアセスメント	心血管系のアセスメントを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
7 (首藤)	看護過程 (2)	アセスメント-1:情報の分類、分析・解釈・判断	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(2時間)
8 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント(6) 【演習】肺胸郭のアセスメント	肺・胸郭のアセスメントを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
9 (本吉)	ヘルスアセスメント(7)	筋・骨格系、神経系、頭頸部、外皮・リンパ系のアセスメントの目的と方法	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
10 (首藤)	看護過程 (3)	アセスメント-2:情報の分類、分析・解釈・判断	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(2時間)
11 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント(8) 【演習】腹部のアセスメント	腹部のアセスメントを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
12 (首藤)	看護過程 (4)	アセスメント-3:情報の分類、分析・解釈・判断についてグループワークを行う	事前学習:アセスメントに関するグループワークの準備(1時間) 事後学習:グループワークの内容を踏まえた各自のアセスメントの見直し(1時間)
13 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント(9) 【演習】筋骨格系のアセスメント	筋・骨格系のアセスメントを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
14 (首藤)	看護過程 (5)	アセスメント-4:情報の分類、分析・解釈・判断についてグループワークを行う	事前学習:アセスメントに関するグループワークの準備(1時間) 事後学習:グループワークの内容を踏まえた各自のアセスメントの見直し(1時間)
15 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント (10) 【演習】神経系のアセスメント	神経系のアセスメントを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
16 (首藤)	看護過程 (6)	アセスメント-5:統合	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習、紙上事例に関する課題(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(2時間)
17 (全担当 教員)	ヘルスアセスメント (11) 【演習】頭頸部、外皮・ リンパ系のアセ スメント	頭頸部、外皮・リンパ系のアセスメントを実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
18 (首藤)	看護過程 (7)	アセスメント-6:統合についてグループワークを行う	事前学習:統合に関するグループワークの準備(1時間) 事後学習:グループワークの内容を踏まえた各自の統合の見直し(2時間)
19 (首藤)	看護過程 (8)	看護問題の明確化と優先順位の検討	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習、紙上事例に関する課題(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(1時間)
20 (首藤)	看護過程 (9)	計画-1:目標・期待される成果の設定	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習、紙上事例に関する課題(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(1時間)
21 (首藤)	看護過程 (10)	計画-2:具体策の立案	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習、紙上事例に関する課題(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習、紙上事例に関する課題(2時間)
22 (首藤)	看護過程 (11)	計画-3:目標・期待される成果の設定と具体策の立案についてグループワークを行う	事前学習:計画に関するグループワークの準備(1時間) 事後学習:グループワークの内容を踏まえた各自の計画の見直し(1時間)
23 (首藤)	看護過程 (12)	計画-4:目標・期待される成果の設定と具体策の立案についてグループワークを行う	事前学習:計画に関するグループワークの準備(1時間) 事後学習:グループワークの内容を踏まえた各自の計画の見直し(1時間)
24 (首藤)	看護過程 (13)	計画-5:目標・期待される成果の設定と具体策の立案について発表会を行う	事前学習:計画に関する発表会の準備(2時間) 事後学習:発表会の内容を踏まえた各自の計画の見直し(1時間)
25 (全担当 教員)	看護過程 (14)	実施-1:模擬実践の援助項目を決定し、具体的な計画についてグループワークを行う	事前学習:模擬実践に関する計画の準備(2時間) 事後学習:グループワークの内容を踏まえた計画の見直し(1時間)
26 (全担当 教員)	看護過程 (15)	実施-2:模擬実践の練習をグループで行う	事前学習:模擬実践に関する計画の準備(2時間) 事後学習:模擬実践の練習を踏まえた計画の見直し(1時間)
27・28 (全担当 教員)	看護過程 (16・17)	実施-3:模擬実践の発表会を行う	事前学習:模擬実践の発表会に関する準備(1時間) 事後学習:模擬実践の発表会に関する各自の振り返り(1時間)
29 (首藤)	看護過程 (18)	評価-1:模擬実践についてグループで振り返りを行う	事前学習:看護過程の実施、評価に関するテキストを読む(1時間) 事後学習:看護過程の全プロセスの再考(2時間)
30 (園田)	看護における情報管理	1. 情報とは何か 2. 看護における情報 3. 看護記録における法的規定 4. 個人情報の取り扱い、守秘義務 5. 看護記録の記載時の留意点	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)

授業科目	看護技術論Ⅲ Fundamentals of Nursing Skill III			担当教員	園田 典子、首藤 英里香、本吉 明美、 横山 桂子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	本科目では対象者が安全・安楽に治療・検査を受けられるよう、診療に伴う看護技術の科学的根拠および原理原則に基づいた正確な技術を習得する。さらに、紙上事例を用いた看護実践の検討を通して日常生活上の留意点について理解する。講義・演習を通して診療過程に伴う看護者の役割、責任を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う看護者の役割と責任について説明できる。 2. 診療に伴う看護技術の目的と適応を説明できる。 3. 対象者の安全・安楽を守り、自立を促す看護援助について考えることができる。 4. 身体侵襲を伴う看護技術を根拠に基づき実施できる。 5. 薬物療法を受ける対象者への看護について説明できる。 6. 酸素化が阻害されている対象者への看護について説明できる 						
関連科目	看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ、看護技術論Ⅱ、看護倫理、援助関係論 看護基礎実習Ⅰ、看護基礎実習Ⅱ						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋照子編「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メデカルフレンド社) 3. 深井喜代子編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メデカルフレンド社) 						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス」(学研) 2. 藤野彰子 他「看護技術ベーシックス」(サイオ出版) 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院) 4. 本庄恵子 他「写真でわかる臨床看護技術①」(インターメディカ) 5. 吉田みつ子 他「写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス」(インターメディカ) 6. 小林美亜編「医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力」(学研メディカル秀潤社) 						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	小テストは全4回実施し、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、ワークブック、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する(30%)。定期試験では、筆記試験の解答状況により各単元に関連する理解度を評価する(50%)。				
	レポート						
	小テスト	20					
	提出物	30					
その他							
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習を参考にして予習を行う。 2. 各技術演習の事前学習は、配布資料やテキスト、視聴覚教材を用いて当該技術の目的、要点、留意点、根拠を調べるとともに、事前学習課題、ワークブックに取り組む。 3. 診療に伴う看護技術は反復練習が難しいものもあるため、演習での指導や返却された演習後記録をもとに学習内容を整理し理解を深める。 4. 紙上事例を用いたグループディスカッションでは、学生間の活発な意見交換が行われることを望む。 5. 本科目では全ての授業・演習項目を体験し課題を提出しなければならない。授業・演習を欠席したまま補充学習を行っていない場合には単位認定の対象外とする。 						
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは実施後に解答・解説を行う。 演習記録の事前学習課題・演習後記録は基本的にコメントを付して返却する、または必要に応じて授業内でコメントする。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を用いながら授業を展開する。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (園田)	診療に関する看護の 役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療について 2. 診療に関する看護者の役割 			事前学習：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする(30分) 事後課題：テキスト、配付資料をよく読み診療に関する看護の役割をまとめる(1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 (園田)	検査に伴う看護 (1)	1. 検査に伴う看護者の役割 2. 検査の種類と検体の取り扱い 3. 採血に関する看護技術 <小テスト 1>	事前学習：テキストの学習の主題、内容に関連する箇所を読む (1 時間) 事後課題：テキスト、配付資料をよく読み検査に伴う看護についてまとめる (1 時間)
3 (全担当 教員)	検査に伴う看護 (2) (演習)	静脈血採血の基本技術を実施し、評価する	事前学習：事前課題に取り組み静脈血採血の基本知識をまとめる (1 時間) 事後学習：事後課題において自己の実施を評価し、課題を明確にする (1 時間)
4 (園田)	与薬の看護 (1)	1. 薬物療法の種類と生体への影響 2. 与薬における看護者の役割	事前学習：テキストの学習の主題、内容に関連する箇所を読む (1 時間) 事後課題：テキスト、配付資料をよく読み薬物療法の種類と生体への影響、与薬における看護者の役割をまとめる (1 時間)
5 (園田)	与薬の看護 (2)	1. 与薬に関する看護援助 2. 与薬に関する安全管理 <小テスト 2>	事前学習：テキストの学習の主題、内容に関連する箇所を読む (1 時間) 事後課題：テキスト、配付資料をよく読み与薬に関する看護援助、安全管理についてまとめる (1 時間)
6 (全担当 教員)	与薬の看護 (3) (演習)	筋肉内注射の基本技術を実施し、評価する	事前学習：事前課題に取り組み筋肉内注射の基本知識をまとめる (1 時間) 事後学習：事後課題において自己の実施を評価し、課題を明確にする (1 時間)
7 (全担当 教員)	与薬の看護 (4) (演習)	経口与薬、皮下注射の基本技術を実施し、評価する	事前学習：事前課題に取り組み経口与薬、皮下注射の基本知識をまとめる (1 時間) 事後学習：事後課題において自己の実施を評価し、課題を明確にする (1 時間)
8 (全担当 教員)	与薬の看護 (5) (演習)	点滴静脈内注射の基本技術を実施し、評価する	事前学習：事前課題に取り組み点滴静脈内注射の基本知識をまとめる (1 時間) 事後学習：事後課題において自己の実施を評価し、課題を明確にする (1 時間)
9 (園田)	酸素化の看護 (1)	1. 酸素化の過程の阻害とその影響 2. 酸素化に関わるアセスメントの視点 3. 酸素化が阻害されている対象者への看護援助 <小テスト 3>	事前学習：テキストの学習の主題、内容に関連する箇所を読む (1 時間) 事後課題：テキスト、配付資料をよく読み酸素化の看護についてまとめる (1 時間)
10 (全担当 教員)	酸素化の看護 (2) (演習)	酸素吸入、口腔内・鼻腔内吸引の基本技術を実施し、評価する	事前学習：事前課題に取り組み酸素吸入、口腔内・鼻腔内吸引の基本知識をまとめる (1 時間) 事後学習：事後課題において自己の実施を評価し、課題を明確にする (1 時間)
11 (全担当 教員)	経管栄養 (演習)	経鼻経管栄養の基本技術を実施し、評価する	事前学習：事前課題に取り組み経鼻経管栄養の基本知識をまとめる (1 時間) 事後学習：事後課題において自己の実施を評価し、課題を明確にする (1 時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12 (園田)	診療過程における対象者への看護の理解 (1)	1. 紙上事例を用いて診療過程における対象者への看護を理解する 事例1: 点滴静脈内注射中の対象者への寝衣交換 事例2: 酸素投与中の対象者への移動介助 *看護技術論Ⅰ授業資料、日常生活援助技術に関連する参考書を持参する <小テスト4>	事前学習: 事例をよく読み不明な点を調べる (1時間) 事後課題: 各事例の内容を理解し行動計画、実施手順書を立案する (2時間)
13 (全担当 教員)	診療過程における対象者への看護の理解 (2) (演習)	事例1 行動計画に基づいて看護実践のシミュレーションを実施し、評価する	事前学習: 事例1の行動計画を立案する (2時間) 事後課題: シミュレーション、グループディスカッションの内容を振り返り、より良い看護実践となるよう行動計画、実施手順を修正する (1時間)
14 (全担当 教員)	診療過程における対象者への看護の理解 (3) (演習)	事例2 行動計画に基づいて看護実践のシミュレーションを実施し評価する	事前学習: 事例2の行動計画を立案する (2時間) 事後課題: シミュレーション、グループディスカッションの内容を振り返り、より良い看護実践となるよう行動計画、実施手順を修正する (1時間)
15 (全担当 教員)	診療過程における対象者への看護の理解 (4) (演習)	行動計画立案および修正、シミュレーション、グループワークでの気づきや考えたことをグループごとに発表し、学びを共有する	事前学習: 2つの事例の行動計画、実施手順を整理しておく (2時間) 事後学習: グループ発表を聞いて学んだことを整理する (1時間)

授業科目	健康教育論 Health Education			担当教員	川口 桂嗣		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎	○		
授業目的	健康教育の基本となる理論と活動方法について学び、個人・集団を対象とした健康教育の企画・実施・評価に必要な知識を修得し、看護職の役割を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療の場における健康教育の目的と役割を理解する。 健康教育に用いられる諸理論を理解する。 健康教育の主な対象である成人の学びの特徴を理解する。 健康教育が行われる場を理解する。 健康教育の方法と媒体の特徴を理解する。 個人・集団に対する健康教育の計画策定の知識を獲得する。 						
関連科目	学びの理解、成人看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ、公衆衛生看護支援論Ⅱが関連科目である。						
テキスト	講義時に資料を配布する。						
参考書	特定非営利活動法人 日本健康教育士養成機構編著「新しい健康教育」(保健同人社) 宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著「最新保健学講座<別巻 1>健康教育論」(メヂカルフレンド社) 中村裕美子「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術論」(医学書院) Karen Granz 他著、曾根智史他訳「健康行動と健康教育」(医学書院) 宗像恒次「最新行動科学からみた健康と病気」(メヂカルフレンド社) 大西和子、櫻井しのぶ編「成人看護学 ヘルスポモーション」(ヌーヴェル・ヒロカワ) 日本健康教育学会編「健康教育ヘルスポモーションの展開」(保健同人社)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	90	定期試験(90点)は到達目標の達成度を評価する。 講義内で小テスト(10点)を実施し、行動変容の諸理論の理解度を評価する。 上記の各評価の総合で本科目の評価とする。				
	レポート						
	小テスト	10					
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	常にヘルスポモーションの理念を基本にして学習を進めてください。						
課題に対するフィードバックの方法	講義内で実施した小テストの結果は次の講義の際に返却し解説を行う。毎回、前回の講義内容を復習したうえで、講義をすすめる。						
実務経験を活かした教育内容	保健師としての実務経験を持つ教員が、実際に健康教育を実施してきた中での事例や体験を紹介しながら、健康教育の展開に必要な知識・技術を理解しやすいように講義を実施します。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	健康教育の特徴	1.健康教育の考え方(定義、目的) 2.ヘルスポモーションと健康教育 3.成人の学びの特徴と成人期の健康教育の特徴 4.健康教育が実施される場				事前:ヘルスポモーションについて復習する(2時間)。	
2	健康行動と行動変容	1.生活行動とその行動に影響を与える要因 2.健康行動と行動変容				事後:講義内容を参考に自分自身の生活・健康行動について振り返る(2時間)。	
3	健康行動、行動変容を理解するための理論(1)	1.保健信念モデル 2.変化ステージ理論				事後;参考文献で理論について復習する(2時間)。	
4	健康行動と行動変容を理解するための理論(2)	1.エンパワメント理論 2.社会的認知理論				事後;参考文献で理論について復習する(2時間)。	
5	健康教育の方法とその特徴(1)	1.健康教育の方法と技術 2.教育教材の種類				事後;参考文献で講義内容について復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	健康教育の方法とその特徴 (2)	1.健康教育の展開 2.ヘルスプロモーションとプリシード・プロシードモデル 3.プリシード・プロシードモデルを活用した健康教育の展開	事後；参考文献で講義内容について復習する (2 時間)。
7	健康教育の企画・実施・評価 (1)	・健康教育の企画・準備に必要な知識を方法	事後；参考文献で講義内容について復習する (2 時間)。
8	健康教育の企画・実施・評価 (2)	・健康教育の評価 (評価の目的、評価の種類)	事後；モデルをもとに健康教育に求められている要素について考える (2 時間)。

授業科目	家族看護学 Family Nursing		担当教員	安藤 陽子			
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	地域包括ケアシステムにおける患者（療養者）とその家族を1単位としてとらえ、本人および家族が望む自立した生活を主体的に営むために機能する家族看護の基本的な考え方と支援方法および技術を理解する。						
到達目標	1.地域包括ケアシステムにおける看護の対象としての家族について説明する。 2.地域で生活する家族の健康について説明する。 3.家族を理解するための諸理論を理解する。 4.家族のセルフケア機能の向上を目指す家族看護過程について理解する。 5.本人および家族が自ら望む生活を主体的に送るための、看護者の役割や基本姿勢を説明する。						
関連科目	3年前期 在宅看護学概論、3年後期 在宅看護論ⅠおよびⅡと密接に関連する。						
テキスト	鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子「家族看護学・理論と実践 第5版」(日本看護協会出版会)						
参考書	1.山崎あけみ、原礼編集「家族看護 改訂第3版」(南江堂) 2.「国民衛生の動向」2022/2023 (厚生労働統計協会)						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標達成状況を筆記試験と提出物により総合的に評価します。 1.課題レポート(20点)：家族看護理論を活用し、講義中に提示する教材事例への看護過程に関する理解度を評価します。 2.定期試験(80点)：講義内容の到達度を評価します。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	20					
その他							
履修上の 留意事項	人間は家族の中で誕生生育てられ、社会に巣立っていく存在である。今後、家族から独立しようとしているみなさんは、日頃、家族について考える機会がありますか。家族の一員である自分について改めてみつめ、家族がどのような歴史を経て今日に至ったのか、自分はどのように家族から影響を受けてきたのか、そしてどのように生きていくのかについて考えてみてください。今、わが国の家族は多様化し、単身者も増加しています。そのような社会にあって、家族を看護することはどのような意味をもつかを考えてください。そのために、現代に生きる多様な家族の現状を、専門書以外の新聞記事やテレビ、映画、漫画や絵本なども活用して理解を深め、これから病院や地域で出会うさまざまな家族に関心を持ち、看護を実践していきましょう。						
課題に対するフィ ードバックの方法	レポートについては、全体にコメントを伝える。						
実務経験を 活かした教育内容	すべての発達期そして健康レベルの異なる多様な家族を看護した経験のある教員が担当します。各専門看護科目の基礎となる位置づけにあるため、各専門領域の学習と連動していくように、理論を踏まえて教材化した事例を用いて授業を展開します。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	看護の対象である地域 包括ケアシステムにお ける家族の特徴	1.「家族」の定義 2.わが国の家族の動向～これまで・現在・そしてこれから 3.地域包括ケアシステムの中にある家族の生活				事前学習)現在の自分の家族の生活について、見直す。その生活と地域がどのように関係しているのかを考える。地域包括ケアシステムについて復習しておく(1時間)。 事後学習)講義内容を復習し、看護の対象としての現代の家族とその生活について多様な方法を用いて調べ、ノートにまとめる(2時間)。	
2	家族看護が目指す「健 康な家族」とは	1.健康な家族とは 2.家族の健康の概念としてのセルフケア機能 3.家族看護の目的と目標 4.家族看護の歴史 5.地域における家族の生活(生活構造理論)				事前学習)自分が生まれてから家族がどのように地域で生活してきたのか、必要時家族から情報を得て考える(2時間)。 事後学習)自分の家族の健康について家族のセルフケア機能から判断し、ノートに整理する。自分の家族の生活について理論を活用して考える(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3	家族を理解するための諸理論(1)	1.家族の構造(役割、コミュニケーション、愛着関係、価値観、リーダーシップ) 2.家族の機能(フリードマンの家族機能) 3.家族が主体的に課題に向き合い解決していく意思決定のプロセス	事前学習)自分の家族内での役割や家族の関係性について考える(2時間)。 事後学習)学習した理論を活用し、自分の家族がこれまでどのような役割を調整しながら生活してきたか、その時の家族の関係や家族として大切にしてきたことは何か、何かを決めるとき、どのように意思決定してきたのかを考える(2時間)。
4	家族を理解するための諸理論(2)	1.家族のライフサイクルと発達課題(家族発達理論) 2.システムとしての家族(家族システム理論)	事前学習)現在の自分の家族が向き合っている課題は何かを考える。自分の周囲にあるさまざまなシステムを探してみる(2時間)。 事後学習)学習した理論を活用し、自分の家族のこれまでの発達プロセスを振り返り、そこから家族について考える。家族をシステムの3要素から見直す(2時間)。
5	家族を理解するための諸理論(3)	1.家族の危機(発達の危機と状況的危機) 2.家族がストレスを抱えたときの対応と適応(家族ストレス対処理論) ・教育期の家族の事例検討	事前学習)自分の家族がこれまでさまざまな課題をどのように乗り越えてきたのかを振り返る(2時間)。 事後学習)既習の家族理論、教材の家族事例からの学びを活用し、自分の家族がどのような時にストレスを抱え、どのように対応してきたのかを分析してみる(2時間)。
6	家族看護過程(1)	1.国内外の代表的な家族アセスメント理論・モデル 2.家族看護過程 3.家族のセルフケア機能の情報収集・アセスメントと健康課題	事前学習)これまで学習してきた看護過程について、また家族のセルフケア機能について復習する(2時間)。 事後学習)授業中学習した家族事例の情報を整理しアセスメントをする。健康課題を考える(2時間)。
7	家族看護過程(2)	1.家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護計画 2.家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の方法・技術 3.家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の評価	事前学習)授業中学習した家族事例の健康課題に対する看護計画について考える(2時間)。 事後学習)授業中学習した家族事例への家族看護過程から、家族看護の目的・機能を再考する。これからの時代や社会における家族看護の意味や意義について考える(2時間)。
8	これからの時代に生きる家族への看護者の役割と基本姿勢	1.現代家族が向き合うさまざまな健康課題 2.家族とのパートナーシップの形成 3.家族とのパートナーシップの形成するための技術 4.家族とパートナーシップを形成するための看護職の役割と基本施設	事前学習)基礎看護実習で出会った患者とその家族に対して、どのような家族看護ができたのかを、家族看護過程に沿って考える(2時間)。 事後学習)家族看護を実践していく際の看護者としての自分の課題について考えてみる(2時間)。

授業科目	看護倫理 Nursing Ethics			担当教員	大日向 輝美、園田 典子		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	看護は、看護職者と対象者の関係性を契機とする実践であり、人間らしさを追求する倫理的要請に依拠します。しかし、人間社会で行われる活動であるが故にその内部には双方の人間らしさを脅かす様々な要因が存在し、看護本来の目的実現を妨げています。このような状況においてよりよい看護を実現するためには、物ごとを多面的に見つめて何がなぜ看護のありように影響を及ぼしているのかを捉え、本来の目的実現に向けた方途を探らなければなりません。本科目では、よりよい看護を実現するための思考と態度を学ぶことをとおして、看護職者に求められる役割・責任を認識するとともに看護実践の倫理に関する理解を深めます。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての倫理、看護職者にとっての倫理について自分なりに説明できる。 2. 看護倫理にかかわる基本的な概念を説明できる。 3. 「看護とは何か」「看護職者とは何をするものか」という問いに対し、倫理的観点からの回答を表明できる。 4. 紙上事例を用いてよりよい看護を実現するための思考過程をたどり、以下の目標を達成できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の人間らしさを阻んでいるもの、その状況を作り出している要因について説明できる。 2) 制約のある状況下における看護のあり方を検討し、短期的・中長期的な改善・解決策を提案できる。 3) 紙上事例での学習を振り返り、自己の思考過程を明示的にたどる。 5. 看護実践の倫理と看護職者に求められる役割・責任について自分なりの考えを表明できる。 						
関連科目	看護学概論、看護技術総論						
テキスト	なし						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. F・ナイチンゲール（湯楨ます他訳）「看護覚え書」第7版（現代社） 2. 日本看護協会編「看護者の倫理的責務 2020年版」（日本看護協会出版会）1. 小西恵美子編「看護倫理—良い看護・よい看護師への道しるべ」第2版（南江堂） 3. S・T・フライ他（片田範子他訳）「看護実践の倫理—倫理的意思決定のためのガイド」第3版（日本看護協会出版会） 4. 服部健司他「医療倫理学のABC」第4版（メヂカルフレンド社） 5. D・F・チャンプリス（浅野祐子訳）「ケアの向こう側—看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾」（日本看護協会出版会） 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		<p>提出物：毎時の授業での取組みと事前・事後の学習は全てワークシートに記載し、提出します。評価基準等は1回目の授業で説明します。</p> <p>レポート：看護実践の倫理にかかわるテーマを設定します。詳細は8回目の授業で説明します。</p>				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物	80					
その他							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク中心ですが、授業は学生と教員、学生同士の対話の場なので、積極的な関与を求めます。 ・本科目では「考える」ことを重視します。これまで深く考えたことがなかった事象に対し、立ち止まって考え意味づける取組みを求めます。物事を多角的に見る視点を養うために必要な姿勢だからです。考えることを厭わず、考えることに楽しみを見出し、考えることで自らの成長を促す契機にしてほしいと願います。 						
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の提出物は、学生の記述をピックアップして資料として配布し、次の授業でコメントします。 ・基本的に、提出物にはコメントを記載して返却します。 						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (大日向) (園田)	ガイダンス 倫理とは何か_1	1. 本科目の目的・内容、方法、履修上の留意事項 2. 倫理とは 3. 倫理的思考			事前 (0.5 時間)：シラバス内容の確認、事後 (0.5 時間)：授業内容の復習		
2 (大日向) (園田)	倫理とは何か_2	1. 倫理と道徳 2. 倫理と価値			事後 (0.5 時間)：授業内容の復習		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (大日向) (園田)	看護倫理とは何か_1	1. 看護倫理とは何か 2. 看護職者の倫理的責任 3. F・ナイチンゲールと看護職者の倫理 4. 医療・看護の本質	事後 (0.5 時間) : 提示された課題への取組、授業内容の復習
4 (大日向) (園田)	看護倫理とは何か_2	1. 看護倫理の重要概念 2. 専門職を裏付ける態度 3. 看護職の倫理綱領 4. 専門職倫理の原則	事後 (0.5 時間) : 授業内容の復習
5 (大日向) (園田)	事例検討_1	1. 導入事例 (事例 1_ポアと抑制) への取組 2. 紙上事例 (事例 2_抑制と看護) _場面 1 への取組	事後 (0.5 時間) : 提示された課題への取組、授業内容の復習
6 (大日向) (園田)	事例検討_2	1. 抑制・拘束とは 2. 紙上事例 (事例 2_抑制と看護) _場面 2 への取組	事後 (0.5 時間) : 授業内容の復習
7 (大日向) (園田)	事例検討_3	2. 紙上事例 (事例 2_抑制と看護) _場面 2 への取組	事前 (1 時間) : 配布資料の熟読、提示された課題への取組、事後 (0.5 時間) : 授業内容の復習
8 (大日向)	まとめ	1. 看護倫理とは何だったか 2. 紙上事例に内在する問題、思考過程の振り返り 3. 倫理的な看護の実現に向けて 4. 課題レポートの説明	事後 (0.5 時間) : 授業内容の復習、感想文の記載

授業科目	看護理論 Nursing Theories			担当教員	木津 由美子、本吉 明美		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	本科目では、看護理論の意義と歴史的発展、理論としての構成要素、看護の諸理論に共通する下位概念と関係性について理解するとともに、看護現象における理論と技術および看護過程の関係について理解する。さらに主たる看護理論を分析的に学習することで、看護実践の基盤となる理論的根拠についての理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における看護理論の位置づけと意義について理解する。 2. 看護理論の歴史の変遷と分類の特徴を理解する。 3. 看護理論の定義、理論構築の要素について理解する。 4. 看護理論における共通概念および諸理論の基礎を理解する。 5. 事例や自己の看護体験をもとに、看護理論を実践的に活用する。 						
関連科目	1年次～2年次までの看護の基本科目に関連している。						
テキスト	関係資料を授業開始時に配付する。						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. J.B. ジョージ、南裕子他訳「看護理論集 第3版」(日本看護協会出版会) 2. A.M. トメイ他、都留伸子監訳「看護理論家とその業績」(医学書院) 3. 金子道子編「看護論と看護過程の展開」(照林社) 4. 筒井真優美編「看護理論」(南江堂) 5. F. ナイチンゲール、湯楨ます訳「看護覚え書」(現代社) 看護理論に関する文献は、随時紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		到達目標 1～4 の総合評価と到達目標 5 について授業後に課題(所定用紙)に取り組み提出したものを定期試験相当とし、学習到達状況を評価する。 提出物は5課題あり、1課題につき20点で評価をする。 提出した記録物に不備があった場合は減点対象とする。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	100					
その他							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義進行のために事前資料を必ず読み、ノートに整理しておくこと。 2. 受講態度は「学習活動の手引き」の「受講の心構え」に従うこと。逸脱行為と判断した場合は最終評定から減点する。 3. 第5回目以降は、事例や実習での体験をもとに看護理論を活用する。 						
課題に対するフィードバックの方法	提出物は、全て定期試験相当と見做すため返却はしない。提出物の内容についてのコメントは、授業の中でクラス全体に対して口頭でフィードバックするので、ノートに書き留めてほしい。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、理論の意義・目的や各理論家の説明時には臨床経験に基づく場面を例示することで、わかりやすく授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (木津)	看護実践における理論の位置づけと意義	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点) 2. 看護理論を学ぶ意義と必要性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職の発展と看護理論 2) 看護実践と理論発生との関係 			事前：シラバスを読む(1時間)。 事後：事例の看護計画(提出物①)を立案する(2時間)。		
2 (木津)	看護理論の構築と基礎となる概念	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を学ぶ意義と必要性(続き) <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の歴史的概観と分類・特徴 2) 看護における実践と理論・研究の環状的性質 2. 看護理論の構築と基礎となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の定義と理論構築の要素 2) 看護の諸理論に共通する概念 3. グループ学習の説明 			事前：配付資料を読む(1時間) 事後：事例の看護計画(提出物①)を立案する(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (木津) (本吉)	(演習) グループ学習	1. 看護事例のアセスメントと看護計画の立案	事前：事例の看護計画（提出物①）を完成させる(2時間)。 事後：グループ学習の学びをノートにまとめる(1時間)。
4 (木津)	主たる看護理論の分類と特徴(1)	1. 主たる看護理論家と看護モデルの分類・特徴 ナイチンゲール F.、ヘンダーソン V.、オレム D.E.、オーランド I.J. 2. 今回取り上げる理論家：ナイチンゲールの提唱する看護の理論的特徴 1) 理論家の背景、看護の目的・定義 2) 看護と人間・健康・環境、看護過程	事前：ナイチンゲール「看護覚え書き」序章と補章及び理論家の配付資料(ナイチンゲール)を読む(2時間)。 事後：本日の授業のまとめをノートに記載する(1時間)。
5 (本吉)	主たる看護理論の分類と特徴(2)	1. ヘンダーソンの提唱する看護の理論的特徴 1) 理論家の背景、看護の目的・定義 2) 看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 看護計画について、ヘンダーソンの看護理論で説明する。	事前：V ヘンダーソン「看護の基本となるもの」及び理論家の配付資料(ヘンダーソン)を読む(2時間)。 事後：事例の看護計画（提出物②）を完成させる(2時間)。
6 (本吉)	主たる看護理論の分類と特徴(3)	1. オレムの提唱する看護の理論的特徴 1) 理論家の背景、看護の目的・定義 2) 看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 看護計画について、オレムの看護理論で説明する。	事前：理論家の配付資料（オレム）を読む(1時間)。 事後：事例の看護計画(提出物③)を完成させる(2時間)。
7 (木津)	主たる看護理論の分類と特徴(4)	1. オーランドの提唱する看護の理論的特徴 1) 理論家の背景、看護の目的・定義 2) 看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 実習体験の一場面を取り出し、オーランドの看護理論を用い、自己の言動の分析と課題を明確にする。	事前：理論家の配付資料（オーランド）を読む(1時間)。 事後；プロセスレコード(提出物④)を完成させる(2時間)。
8 (木津)	看護実践と看護理論の関係と適用(まとめ)	1. 看護事例における看護理論の適用と看護過程 2. 看護計画（提出物①）の修正の完成	事前：提出物①の修正をする(2時間)。 事後：看護理論の学びについての最終レポート（提出物⑤）を作成する(2時間)。

授業科目	看護基礎実習Ⅱ Clinical Practicum of Fundamental Nursing II			担当教員	首藤 英里香、本吉 明美、園田 典子、 横山 桂子、他		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	本科目では、病院に入院している対象者と援助関係の構築を目指して関わり、生活者である対象者を全人的に理解し、対象者の個別のニーズに合わせた看護を計画し、実施、評価するプロセスを学ぶ。対象者への看護実践を通して、看護者としての責任を自覚するとともに、実践した看護を振り返り、看護に対する自己の考えを深めることをねらいとする。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と援助関係を築きながら療養生活や健康状態を理解し、必要な看護について看護過程を活用して考えることができる。 2. 対象者の日常生活において必要な看護を実施し、評価できる。 3. 実習体験をもとに看護に対する自分なりの考えを表現し、今後の自己課題を明確にできる。 4. 看護者としての責任を自覚し倫理的行動をとることができる。 						
関連科目	看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論、看護倫理、看護基礎実習Ⅰ						
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	実習要項に 記載	100	実習目標の項目に沿って作成した評価表を使用し、ルーブリックの評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。				
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションは必ず出席してください。 ・既修の看護技術、形態機能学、病態学等について、計画的に復習をしましょう。 						
課題に対するフィ ードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習記録は、担当教員が口頭もしくはコメントの記載によりフィードバックを行います。 ・実習終了後の実習ファイル返却時に、実習評価について個別に口頭で説明します。 						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。						
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション（学内） 2. 実習期間(予定)：2023年11月20日（月）～12月1日（金） 3. 実習時間(予定)：9：00～15：30 4. 実習初日に病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションを受ける。 5. 対象者を受け持ち、関係を築きながら対象者を全人的に理解する。 6. 実習指導者や担当教員の指導を受けながら、対象者の看護上の問題を解決するために必要な看護を考え、実施し、評価する。 7. 毎日の看護実践を振り返り、実習記録を整理する。 8. 病棟実習最終日に病棟での報告会を行い、学びを共有する。 9. 実習最終日にグループワークと学内報告会を行い、学びを共有する。 10. 実習体験をもとに看護に対する考えと今後の自己課題をレポートに整理する。 						
実習施設	北海道内科リウマチ科病院、KKR 札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、札幌山の上病院、手稲溪仁会病院、斗南病院、札幌西円山病院						

授業科目	地域看護実習 Community Health Nursing Practicum		担当教員	安藤 陽子、作並 亜紀子 他			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	実習		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	地域で生活するさまざまな発達段階・健康レベルそして生活環境にいる人々が、地域の多様な社会資源やサービスを利用しながら、どのように自分らしい生活を目指して生活しているか、今後もその生活を継続していこうとしているかを学び、その生活を支える地域包括ケアシステムの構築そして推進していくための看護職の役割について考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域で生活する人々がどのように生き、また今何を大切に生きているのか、さらに今後健康な生活を継続し QOL を維持していくために、どのような希望や要望があるのかを理解する。 2.地域で生活する人々の生活や地域の自然や歴史、文化などの環境が健康にどのように影響を与えているかを説明する。 3.地域で生活する人々が自ら望む健康な生活を継続していくために、どのような社会資源やサービスを必要としているか理解。 4.地域で生活する人々が健康な生活を維持・向上していくために、地域包括ケアシステムの形成そして推進を担う看護職の役割について考える。 						
関連科目	1年後期 地域看護学概論と密接に関連する。						
テキスト							
参考書							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間の 2/3 以上の出席が評価対象となる。 ・実習評価表に基づき、目標達成度を評価する。 				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他	100						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が生きるために何が大切かを、考え続けてください。 ・地域で生活している方々から学ぶという態度を忘れずに、真摯に謙虚に実習に臨んでください。これまでのさまざまな既習内容を復習しておいてください。 						
課題に対するフィードバックの方法	実習終了時には学生の成長を促すよう、学生の自己課題について伝える。						
実務経験を活かした教育内容	地域で看護活動をしてきた教員などが、実務経験を踏まえながら具体的に実習指導を行います。						
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間で2か所の保健医療福祉機関にて、グループ単位で実習する。 ・実習施設を利用している人々から、社会資源を活用しながら地域で生活することについてどのように受け止めているか、今後どのような生活をしていきたいと考えているか、看護職にどのような期待があるかなどをインタビューする。 ・学内において実習施設の理解、グループとしての実習課題の明確化、インタビューの練習を行う。実習中および実習最終日にはグループ討議などを行い目標の達成を目指す。 						
実習施設	<p>介護老人福祉施設：ひかりの 地域密着型介護老人福祉施設:白ゆり南あいの里 デイサービス：豊生会 パワフルひまわり、きらら伏古、エルパサ、てんやわんや、てんやわんや本町、てんやわんや夢 グループホーム：豊生会 すぎの子、すぎの子の家、すぎの子の家族、夢 小規模多機能型居宅介護事業所：さくらの森、菜の花、エルムの森、かたくりの花、すずらん、すみれの花、木蓮 地域包括支援センター：厚別区第1地域包括支援センター、白石区第1地域包括支援センター、白石区第3地域包括支援センター 介護予防センター：介護予防センター 元町、介護予防センター 東苗穂、介護予防センター 西町、介護予防センター 北光、介護予防センター 伏古本町 子育て支援センター：札幌市内10区の保育・子育て支援センター デイケア：こころのリカバリー総合支援センター、こころカ・プロダクション 地域精神医療：幹クリニック</p>						

授業科目	成人看護活動論 I Adult Nursing I			担当教員	藤井 瑞恵、小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円 青田 美穂、春名 純平、村中 沙織		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	<p>1.慢性疾患によりセルフケアが必要となる対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら慢性疾患とともに生活していく対象を支えるための看護活動を理解する。</p> <p>2.健康状態の急激な変化によって、生体がその変化に対応するためにさまざまな反応を起こしている急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら生命の維持・回復に必要な看護活動を理解する。</p> <p>3.手術を受ける対象を周手術期の視点で包括的に理解し、侵襲を最小限にとどめ回復を促進する看護活動を理解する。</p>						
到達目標	<p>1-1. 慢性疾患をもつ対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。</p> <p>1-2. 慢性疾患をもつ意味や対象が抱える問題と背景について概要を説明できる。</p> <p>1-3. 慢性疾患とともに生活する対象のセルフケアを支える援助について説明できる。</p> <p>2-1. 急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。</p> <p>2-2. 急激な健康レベルの変化にある対象の生命の維持、回復の促進に必要な看護活動の考え方を説明できる。</p> <p>3-1. 術前・中・後を通じた対象の健康課題と看護の役割について説明できる。</p> <p>3-2. 手術侵襲が及ぼす生体反応について理解し、術後合併症予防のための援助について説明できる。</p>						
関連科目	主に、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、外来看護実習、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。更に関連する科目は、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」全ての科目も関連する。						
テキスト	<p>1. 鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3版」(南江堂)</p> <p>2. 矢永勝彦、他編「系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論臨床外科看護総論 第11版」(医学書院)</p> <p>3. 北島政樹、他編「系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論臨床外科看護各論 第9版」(医学書院)</p> <p>4. 野崎真奈美、他編「看護学テキスト N i C E 成人看護技術 - 成人看護学 第3版」(南江堂)</p>						
参考書	<p>1. 鈴木志津枝、他編「慢性期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>2. 奥宮暁子編「生活調整を必要とする人の看護Ⅰ, Ⅱ」(中央法規出版)</p> <p>3. 梅田恵、他編「緩和ケア 改訂第2版」(南江堂)</p> <p>4. 安酸史子「糖尿病のセルフマネジメント教育 第3版」(メディカ出版)</p> <p>5. 道又元裕、他編「クリティカルケア看護学」(医学書院)</p> <p>6. 池松裕子、他編「クリティカルケア看護論」(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>7. 雄西智恵美、他編「周手術期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ)</p>						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。 担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	50					
その他							
履修上の 留意事項	既習の知識を活用しつつ、疾患や健康レベルに応じた看護を具体的に考えていきます。成人期の対象の持つ多側面な健康上の課題について、事例を基に進めて行きます。そのため、基本的な人体の構造、病態、治療は理解しているものとして進めて行きますので各自で予習・復習を主体的に行い、看護実践のための知識を蓄えられるように学んでください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1~3 時間の時間を要します。						
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示します。提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、各教員から課題のフィードバックについて説明します。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。また、緩和ケアや急性期看護では専門的な資格をもつゲストスピーカーを招き、臨床実践について講義を行ってまいります。						

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (藤井)	慢性疾患をもつ対象の特徴と理解	1. ガイダンス 2. 成人期にある対象が病いを得ることの意味 3. 慢性疾患を抱えた対象の心理、社会的特徴 4. 治療や検査がもたらす二次的な影響	事後学習：講義内容を整理する。
2 (藤井)	内分泌・代謝障害のある人の看護 1	1. 糖尿病と診断された人の心理的影響 2. 生活の再調整とライフサイクルに与える影響	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
3 (藤井)	内分泌・代謝障害のある人の看護 2	1. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり 2. シックデイ 3. 低血糖ならびに高血糖への対処	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
4 (加藤)	がんを患った人の看護	1. がんの集学的治療と成り行き 2. 化学療法を受ける患者のセルフケアを支える看護 3. 放射線療法を受ける患者のセルフケアを支える看護 事例提示：がんを患った成人期にある患者	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
5 (加藤)	慢性的に循環機能に障害のある人の看護	1. 様々な疾患と心不全 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
6 (伊藤)	終末期のある人の看護	1. 終末期に起こる主な症状 2. 終末期における症状マネジメント 3. 終末期における看護	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
7 (伊藤)	緩和ケアが必要な人への看護	1. 緩和ケアの特徴 2. 緩和ケアを必要とする患者および家族の特徴 3. 緩和ケアの実際 ※ゲストスピーカー	事前学習：緩和ケアが必要な患者への看護について予習する 事後学習：講義内容について整理する
8 (伊藤)	慢性的に呼吸機能に障害のある人の看護	1. 慢性閉塞性肺疾患と成り行き 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
9 (小野)	手術療法と周術期看護の基本	1. 手術療法の変遷と今日の課題 2. 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 3. 手術を受ける患者の心理状態 4. 手術侵襲と生体反応	事前学習：生体反応、炎症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の理解
10 (小野)	術前の看護	1. 意思決定への支援 2. 手術に向けた準備 3. 手術当日の看護 事例提示：肺切除術を受ける患者	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
11 (小野)	術中の看護	1. 手術室の安全管理 2. 環境の管理 3. 安全な手術体位、ME 機器の取り扱い 4. 直接・間接介助の看護師の役割と連携 5. 麻酔法と麻酔時の看護	事前学習：事例の手術内容、麻酔方法、手術体位について予習する 事後学習：講義ノートのまとめ、事例の理解、課題の提出
12 (小野)	術後の看護 1	1. 術後合併症および看護 2. 術後の観察とアセスメント 3. 早期離床の意義とそれを促す援助 4. 合併症の予防、苦痛の緩和のための観察、アセスメントの視点および看護 事例提示：大腸切除術を受ける患者	事前学習：創傷管理、ドレナージ、術後合併症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の理解、課題提出
13 (小野)	術後の看護 2	1. 術後回復期から退院に向けた準備のための看護 2. 術後機能障害とセルフケア能力獲得のための援助 3. 手術による喪失体験 事例提示：人工肛門造設術を受ける患者	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14 (小野)	急性期にある対象の理解と看護活動1	1. 急激な健康レベルの変化と急性期看護の考え方 2. 生命維持のための看護活動 3. クリティカルケアにおける日常生活援助 4. クリティカルケアにおける早期リハビリテーション ※ゲストスピーカー	事前学習：集中治療中の看護について予習する 事後学習：講義内容の整理
15 (小野)	急性期にある対象の理解と看護活動2	1. クリティカルな状態にある患者とその家族の特徴 2. クリティカルな状態にある患者の家族への看護 3. 意思決定支援 ※ゲストスピーカー	事前学習：集中治療中の患者と家族への支援について予習する 事後学習：講義内容の整理

授業科目	成人看護活動論Ⅱ Adult Nursing II			担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、池野 航平、今泉 里絵、藤井 瑞恵		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	<p>1. 慢性疾患とともに生活する患者・家族を支えるために必要な援助技術を習得する。</p> <p>2. 急性期ならびに周手術期にある患者・家族を看護するために必要な援助技術を習得する。</p> <p>3. 救命処置（BLS）の知識・技術を習得する。</p> <p>これらの内容は、臨地実習をはじめとする臨床での看護活動に実践できるよう修得することを目指す。</p>						
到達目標	<p>1-1 事例を通し、慢性疾患を抱える患者・家族のセルフマネジメントならびにセルフモニタリングについて考え、日常生活を支えるための看護技術を実施できる。</p> <p>1-2 生活者の視点で考え、患者・家族のセルフケアを高める教育的関わりについて説明できる。</p> <p>2-1 事例を通し、急性期にある患者の心身の回復を促進する援助技術を実施できる。</p> <p>2-2 周手術期にある患者の一連の体験を理解し、術前・術中・術後の各期に応じた援助技術を根拠に基づいて考え、説明できる。</p> <p>2-3 術後合併症予防のための術前からの介入、早期発見、回復の促進のための援助技術を考え、実施できる。</p> <p>3-1 心肺停止時の緊急時対応の原則を理解し、効果的な BLS が実施できる。</p>						
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅲ、外来看護実習、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。更に関連する科目は、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」全ての科目も関連する。						
テキスト	<p>1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術 改訂第3版」（南江堂）</p> <p>2. 鈴木久美、他：「成人看護学 慢性期看護 改訂第4版」（南江堂）</p> <p>3. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」（医学書院）</p> <p>4. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」（医学書院）</p>						
参考書	<p>1. 稲葉佳江他編「看護ヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社）</p> <p>2. 雄西智恵美他編「周手術期看護論」（ヌーヴェルヒロカワ）</p> <p>3. 下正宗編「エビデンスに基づく検査データ活用マニュアル 改訂第3版」（学研メディカル秀潤社）</p> <p>4. 阿曾洋子編「基礎看護技術 第7版」（医学書院）</p> <p>5. 深井喜代子編「基礎看護技術Ⅱ」（メヂカルフレンド社）</p> <p>6. 日本糖尿病学会編「糖尿病治療の手びき」（南江堂）</p> <p>7. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院）</p> <p>8. 小松浩子他「系統看護学講座別巻 がん看護学」（医学書院）</p>						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点				
	試験	80	目標への到達状況を提出物、定期試験（筆記試験）により評価する。担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。なお、定期試験を受験しなかった学生は評価の対象にしない。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	20					
その他							
履修上の留意事項	健康レベルに応じた援助技術を習得するため、慢性期・周手術期・急性期のオムニバスで授業は進められる。これまでの学習を活用し主体的に予習に臨むとともに、実践可能なレベルに到達するよう援助技術の習得に意欲的に取り組むこと。また特に、実習室使用日やクラス分けについては掲示板等で連絡するため見落としがないように各自で注意する。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途提示するが、概ね予習・復習それぞれに1～3時間の時間を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示します。提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、各教員から課題のフィードバックについて説明します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義、演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。特にがん化学療法については認定看護師として活躍されている方をゲストスピーカーとして招き、実践状況を踏まえて授業を行います。						
回数（担当）	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 （小野） （加藤）	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助1	<p>1. ガイダンス</p> <p>2. セルフモニタリング</p> <p>3. 血糖自己測定（SMBG）</p> <p>4. インスリン自己注射</p> <p>5. 演習ガイダンス</p>			<p>事前学習：事例に基づき病態生理を復習する</p> <p>事後学習：血糖自己測定の指導のパンフレットを作成する</p>		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 (加藤) (全担当 教員)	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助2	【基礎・成人看護実習室、高齢者実習室】 血糖自己測定 of 患者教育 (シミュレーション) ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定された方法でまとめ、提出する
3 (伊藤) (全担当 教員)	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助2	【基礎・成人看護実習室、高齢者実習室】 1. 日常生活の中の困難 2. 呼吸器疾患とセルフマネジメント 3. 呼吸を整える援助 1) 呼吸練習 (口すぼめ呼吸、腹式呼吸) 2) 呼吸困難に対する安楽な体位 3) 酸素吸入療法と酸素飽和度 4. 演習ガイダンス ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習の学びをふまえて、次回演習の準備をする
4 (伊藤) (全担当 教員)	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助3	【基礎・成人看護実習室、高齢者実習室】 慢性の呼吸器疾患を持つ事例患者への看護実践 (シミュレーション) ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
5 (加藤) (全担当 教員)	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり1	1. 事例患者のセルフケアエージェンシーとセルフケアデマンドの明確化 2. 事例患者が生活を再調整する上での目標の明確化 3. 目標を達成するための指導案の作成 ※グループワーク	事前学習：主題に沿って予習する 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する
6 (加藤) (全担当 教員)	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり2	事例患者に対する指導案の発表 1) 指導案に基づいたロールプレイ 2) ディスカッション ※ロールプレイは 3 教室に分かれて行う	事前学習：主題に沿ってロールプレイの準備をグループで行い、指導案を提出する。 事後学習：発表会の内容を整理する
7 (伊藤)	がん化学療法を受ける患者の援助1	1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性 2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア ※ ゲストスピーカー	事前学習：がん化学療法に関してテキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
8 (伊藤)	がん化学療法を受ける患者の援助2	1. 化学療法認定看護師の役割 2. 化学療法認定看護師の行う看護の実際 ※ ゲストスピーカー	事前学習：前回講義内容を確認する 事後学習：講義の内容を整理する
9 (小野) (全担当 教員)	周手術期にある患者への援助技術1	全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と整理・修正 ※グループワーク	事前学習：提示された課題について各自学習し、指定の用紙に整理する 事後学習：グループ内で発表・共有した内容を指定用紙にまとめ、提出する
10 (小野) (全担当 教員)	周手術期にある患者への援助技術2	1. 呼吸器合併症 (無気肺・肺炎)、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、消化器系合併症 (術後腸閉塞)、手術部位感染 (SSI)、等の看護計画の立案 2. 発表資料 (指定用紙) の作成 ※グループワーク	事前学習：提示された課題について各自学習し、指定の用紙に整理する 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する
11 (小野) (全担当 教員)	周手術期にある患者への援助技術3	事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1) 手術後合併症の要因 2) 術前・術後の看護 3) ディスカッション ※グループ発表は 2 ～3 教室に分かれて行う ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う	事前学習：各グループの発表資料を読み、質問内容を考える。これまでの学習内容を整理する
12 (小野)	周手術期にある患者への援助技術4	手術直後の看護 1) 手術直後の患者の状態と必要な看護 (観察の要点など) 2) 演習ガイダンス ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う	事後学習：発表会で共有した内容を整理し、演習に備えて予習する
13 (小野) (全担当 教員)	周手術期にある患者への援助技術5	【基礎・成人看護実習室、高齢者実習室】 手術直後の患者の観察 1) 手術直後の患者のバイタルサインの測定 2) 創傷部位・ドレナージ等、全身状態の観察 3) 測定・観察した内容の記録 ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日に渡って実施する	事前学習：呼吸・循環などに関するフィジカルアセスメントの復習、演習に備えて予習する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14 (小野) (全担当 教員)	周手術期にある患者の 援助技術 6	【基礎・成人看護実習室、高齢者実習室】 1. 輸液管理（点滴内容の確認ならびに滴下数の計算と設定） 2. DVT 予防（弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法） 3. 創傷管理（創傷処置ならびにドレーン挿入部の処置） ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日にわたって実施する	事後学習：演習を振り返り、学びと 課題について指定用紙にまとめ、 提出する。
15 (小野) (全担当 教員)	一次救命処置（BLS）の 実際	【基礎・成人看護実習室、高齢者実習室】 1. AED を用いた一次救命処置 2. 人工呼吸とバックバルブマスクを用いた換気方法 ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する	事前学習：演習に備えて予習する。 事後学習：演習を振り返り、学びと 課題について指定用紙にまとめ、 提出する。

授業科目	高齢者看護学概論Ⅱ Introduction to Gerontological Nursing Ⅱ		担当教員	服部 ユカリ 中田 真依			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	後期高齢者医療制度、介護保険制度、認知症に関する施策など的高齢者に対する社会保障制度ならびに高齢者を支える様々な職種とその連携について講義を通して学ぶ。また、高齢者に多い疾患を理解し、介護を必要とする高齢者およびその家族に対する支援や、高齢者看護における理論やエンドオブライフ・ケアの観点から高齢者の尊厳の保持、事前指示、リビングウィルについて基本的な知識を学ぶ。さらに高齢者虐待や身体拘束等の高齢者看護における倫理的課題や、災害時における高齢者への看護についても学ぶ。						
到達目標	2.高齢者に関わる社会保障制度について理解し、保健医療福祉チームの在り方について説明できる。 3.高齢者を介護する家族の問題や支援の在り方について説明できる。 4.高齢者看護における理論を学修し、エンドオブライフ・ケアについて説明できる。 5.高齢者看護における倫理的課題や災害時におこりやすい課題について説明できる。						
関連科目	高齢者看護学概論Ⅰ、高齢者看護活動論Ⅰ、高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習						
テキスト	1年次後期の高齢者看護学概論Ⅰと同じテキストを用いる 北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)						
参考書	授業の際、使用した文献は適時提示・紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	90	目標の到達状況を定期試験 90%、レポート 10%、合計 100%にて評価する。				
	レポート	10					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	高齢者看護学概論Ⅰを復習して授業に臨むこと。また、予習・復習を行い、高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護実習につながるようノートを作成するなど工夫しながら学修を進めること。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、コメントを付して返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (服部)	ガイダンス 生活機能障害	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等の説明 ・老年期に起こりやすい生活機能障害			事前学習：高齢者看護学概論Ⅰを復習し、事前にシラバスを読んでおく(2時間) 事後学習：講義内容を復習する(2時間)		
2 (服部)	高齢者看護における理論・概念	・サクセスフルエイジング ・ストレングスモデル ・エンパワメント ・コンフォート理論			事前学習：事前にテキストを読んでおく(2時間) 事後学習：講義内容を復習する(2時間)		
3 (服部)	社会保障制度①	・社会保障制度 ・後期高齢者医療制度 ・介護保険制度と介護サービス			事前学習：事前にテキストを読んでおく(2時間) 事後学習：講義内容を復習する(2時間)		
4 (服部)	社会保障制度②	・認知症と認知症施策 ・介護老人保健施設の看護の実際 ・保健医療福祉チームの在り方			事前学習：事前にテキストを読んでおく(2時間) 事後学習：講義内容を復習する(2時間)		
5 (服部)	社会保障制度③	・地域包括ケアシステム			事前学習：事前にテキストを読んでおく(2時間) 【課題】身近な地域での保健医療機関を調べて授業に臨む 事後学習：講義内容を復習する(2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (服部)	介護する家族への支援 高齢者看護の倫理的課題	・介護家族への支援（ピアサポート、レスパイトケアなど） ・高齢者虐待 ・身体拘束	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
7 (中田)	高齢者と災害	・災害時に起こりやすい高齢者の課題	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
8 (中田)	エンドオブライフ・ケア	・高齢者の終末期とエンドオブライフ・ケア ・尊厳の保持、事前指示、リビングウィル	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 【課題】 授業内容に関するレポート作成

授業科目	高齢者看護活動論Ⅰ Gerontological NursingⅠ			担当教員	中田 真依、服部 ユカリ、中武 延		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱでの学修を基に、老年期にある対象を生活者として全人的に理解し、健康課題を明らかにしたうえで個別性に応じた看護実践ができるよう、高齢者看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。高齢者に特有な加齢に伴う諸機能の病態生理学的変化、老年症候群を理解し、多様な健康課題および治療経過にある高齢者への基本的看護について生活機能の視点から学ぶ。保健医療福祉チームの一員として専門職連携（IPW）を理解し、高齢者および高齢者を支える家族への支援方法について学ぶ。また、高齢者への尊厳や意思決定など倫理的観点を理解し、看護専門職としての感性を涵養する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う諸機能の変化や高齢者に多い疾患・症状を理解し、必要な看護について説明できる。 2. 高齢者の多様な健康状態および治療経過を理解し、必要な看護について説明できる。 3. 老年症候群や高齢者の生活機能におけるアセスメントの視点を理解し、必要な看護について説明できる。 4. 加齢に伴う諸機能の変化や援助を要する高齢者を体験し、看護の在り方について考察できる。 5. 多職種連携としてIPWを理解し、高齢者や高齢者を支える家族を含めた看護について説明できる。 6. 高齢者への倫理的課題を理解し、高齢者の尊厳や意思決定を支える看護について説明できる。 						
関連科目	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習						
テキスト	北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正木治恵・真田弘美編「老年看護学概論」(南江堂) 2. 佐々木英忠編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」(医学書院) 3. 泉キヨ子編「根拠がわかる 老年看護技術」(メヂカルフレンド社) 4. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院) 5. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」(東京大学出版会) 6. 水谷信子監修「最新老年看護学 第3版」(日本看護協会出版会) その他、講義内に提示する 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標の到達状況を、定期試験80%、レポート10%、および提出物(ノート作成、他)10%の合計100%によって評価する。				
	レポート	10					
	小テスト						
	提出物	10					
その他							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、3年次の高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習につながるようノートを作成すること。また、定期的に講義内容に関連する国試過去問ミニテストを実施する。 2. 演習は2~3クラスに分かれて実施する。事前に配布する演習要項や関連する講義資料にもとづき予習し、必要な準備をして臨むこと。 						
課題に対するフィードバックの方法	課題はコメントを記し、返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護における事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう授業・演習を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (中田)	ガイダンス 入院・治療を受ける 高齢者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 高齢者の入院・治療への看護、退院支援、IPW 【演習①】のガイダンス 【課題提示①】脳卒中のノート作成 			事前学習：シラバスを読む、高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱの復習(2時間) 事後学習：講義の復習、課題の作成(2時間以上)		
2 (中田他)	【演習①】 高齢者疑似体験	高齢者疑似体験の実施・評価 【課題提示②】：演習終了後レポート			事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：演習の復習、課題の作成(2時間以上)		
3 (中田)	高齢者の転倒・骨折 予防と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う運動機能の変化と転倒 2. 高齢者に多い骨折と予防 			事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：講義の復習(2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (服部)	脳卒中、高次脳機能障害の看護	1. 脳卒中の病態・症状と看護 2. 高次脳機能障害、構音障害他と看護	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
5 (服部)	高齢者の排泄	1. 高齢者に多い排泄障害 2. コンチネンスケア、IPW 【演習②】のガイダンス	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
6 (中田他)	【演習②】 排泄援助演習	高齢者の排泄援助 (オムツ交換) の実施・評価 【課題提示③】排泄体験レポート	事前学習：演習の準備 (2 時間) 事後学習：演習の復習、課題の作成 (2 時間以上)
7 (中田)	パーキンソン病の看護、IPW	1. パーキンソン病の病態・症状と看護 2. 高齢者のリハビリテーション看護と IPW	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
8 (中田)	高齢者の活動と休息、 老年期うつの特徴と看護	1. 高齢者に多い睡眠障害 2. 高齢者の生活リズムを整える看護 3. 老年期うつの特徴と看護 【課題提示④】認知症ノート作成	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習、課題の作成 (2 時間以上)
9 (中田)	誤嚥性肺炎の予防と看護、高齢者の食事	1. 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化と誤嚥性肺炎 2. 誤嚥予防 (食事援助、口腔ケア、胃瘻)、IPW	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
10 (中田)	高齢者の栄養、褥瘡・脱水予防	1. 高齢者の栄養アセスメント 2. 高齢者の褥瘡・脱水予防、IPW 【演習③】のガイダンス	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
11 (中田他)	【演習③】 食事・口腔ケア演習	高齢者の食事・口腔ケアの実施・評価 演習終了後、チェックリスト提出	事前学習：演習の準備 (2 時間) 事後学習：演習の復習、課題の作成 (2 時間以上)
12 (服部)	認知症①	1. 認知症の病態と種類、症状、評価指標 2. 認知症看護の基本原則、認知症ケア (パーソンセンタードケア、ユマニチュードなど)	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
13 (中田)	認知症②	GS：認知症看護認定看護師 1. 認知症高齢者とのコミュニケーション 2. 認知症高齢者への看護実践	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
14 (中田)	高齢者のせん妄予防と看護	1. せん妄の原因・症状 2. せん妄予防の看護、家族支援	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：講義の復習 (2 時間)
15 (中田)	高齢者の清潔・更衣・整容	1. 高齢者の清潔・更衣・整容に関する看護 2. 活動論Ⅰのまとめ 【春休み課題】 活動論Ⅱに向けて、認知症ケアを 1 つ選びまとめる	事前学習：講義の予習 (2 時間) 事後学習：全体の復習、課題の作成 (2 時間以上)

授業科目	小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing		担当教員	河崎 和子			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	○
授業目的	本科目では、家族・社会のなかで生活する小児の成長・発達、発達課題、生育環境、権利擁護を概観し、健全な成長・発達と基本的な生活習慣、健康増進のための看護における小児看護の役割を理解する。また、小児の健康諸課題を解決するために、小児とその家族との人間関係成立・発展の方法、成長・発達過程を促進する方法、生活過程を支援する方法について理解する。さらに小児を取り巻く保健医療福祉メンバーや教育関係者、教育機関や福祉関係機関等との連携・協働のあり方について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健医療の歴史の変遷と小児看護の理念および役割を説明できる。 2. 小児看護を支える法的根拠および小児医療における子どもの権利について説明できる。 3. 成長・発達の概念と発達課題および小児各期の発達の特徴とその評価方法を説明できる。 4. 現代社会における子どもと家族の健康問題について環境との相互作用から説明できる。 5. 子どもと家族の健康の維持・増進に向けた支援方法を説明できる。 						
関連科目	これから学習する小児看護活動論Ⅰ・Ⅱ・小児看護実習の基盤となる科目です。						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅰ改訂第4版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅱ改訂第4版」(南江堂) 						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服部祥子「生涯人間発達論」(医学書院) 2. 中野光編「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書) 3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」(メディックメディア) 4. 日本子ども家庭総合研究所「日本子ども資料年鑑」(KTC 中央出版) 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	目標到達状況を下記の視点から評価し、①②③④の合計が60点以上を合格とする。				
	レポート	10	①提出物：学習シート毎回の講義時に提出する。(各2点30点)				
	小テスト		②定期試験(50点)：試験を実施し、学習到達度を評価する。				
	提出物	40	③発達障害のある子どもと家族への支援(在宅看護の視点から)についてのレポート(10点)				
その他		④指定の期日に提出。「子どもの成長・発達ノート」(10点)					
履修上の留意事項	小児保健医療の変遷やわが国で行われている施策を把握し、子どもの権利を尊重した現代に必要な子どもへの看護について考えてみましょう。 また、子どもと家族に関心を持ち、広い視野から考え積極的な姿勢で学びを深めてください。						
課題に対するフィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義時のワークシートについては、次の講義に返却し、全体の内容に関するコメントを講義の前に周知します。 2. 「子どもの成長・発達ノート」は、定期試験前に返却し、全体へのコメントはteamsにて行います。 						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	小児保健医療と小児看護の変遷と現状	【ガイダンス】 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキストと参考書について説明する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の対象と目的・役割について理解する。 2) わが国における小児保健医療および小児看護の歴史について理解する。 3) 子ども観の変遷について学習する。 				事前学習：小児とはどのような存在かを考え、自分なりに小児看護師の役割について考えてくる(30分)。 事後学習：講義内容を復習し、自らの考える小児看護師の役割について自己のノートに整理しておく(1時間)。	
2	小児看護における理論	<ol style="list-style-type: none"> 1) ポウルピの愛着理論 2) ピアジェの認知発達理論 3) エリクソンの自我発達理論 他 				事前学習：1)～3)の特徴を調べ、概要をまとめてくる(1時間)。 事後学習：理論について復習し、学習した内容をノートに整理する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3	小児医療における 子どもへの倫理的配慮 と生命倫理	1) 子どもの意思決定 2) 子どもの権利擁護 3) 子どもの意思決定・権利擁護を支える看護 4) 小児医療における生命倫理	事前学習：子どもが病院受診した際、子どもの権利が脅かされやすい場面について考えてくる(30分)。 事後学習：倫理的視点から子どもの関わり方について復習する(1時間)。
4	子どもの健康な生活を 支える法・制度	1) 子どもに関する保健統計 2) 子どもの保健・福祉に関する政策と法・制度 3) 子どもの健康増進のための社会資源の活用 4) 子どもの教育と制度 5) 学校保健の施策	事前学習：テキストを読んでくる(1時間)。 事後学習：小児保健の法と制度について自分なりにまとめノートに整理する(1時間)。
5	予防接種の意義と 予防接種法	1) 予防接種の意義 2) 定期接種と任意接種 3) 小児期に特徴的な感染症	事前学習：自分の母子健康手帳にある予防接種を確認し、講義時、持参する。テキストの予防接種について読んでくる(1時間)。 事後学習：主要な予防接種と接種時期について復習し、ノートにまとめる(1時間)。
6	子どもの成長・発達の 基礎知識	1) 子どもの成長・発達 2) 形態・機能的成長・発達 3) 心理・社会的成長・発達 4) 成長・発達の評価	事前学習：テキストを読んでくる。『子どもの成長・発達ノート』について、ノートを準備する(30分)。 事後学習：講義で学習した内容について復習し、ノートに整理する(1時間)。
7	新生児～乳児期の特徴 と支援	1) 乳児期の特徴と支援	事前学習：新生児期・乳児期の特徴についてノートに整理してくる(1時間)。 事後学習：講義で学習した内容について復習し、ノートに要点をまとめる(1時間)。
8	幼児期の特徴と支援	1) 形態的機能発達 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達 4) 子どもと家族の日常生活への支援 5) 幼児期に起こりやすい健康問題と支援	事前学習：テキストを読み、幼児期の特徴についてノートに整理してくる(1時間)。 事後学習：各自の『子どもの成長・発達ノート』に自分なりに特徴の要点をまとめて、理解を深める(1時間)。
9	学童期の特徴と支援	1) 形態的機能発達 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達 4) 子どもと家族の日常生活への支援 5) 学童期に起こりやすい健康問題と支援	事前学習：テキストを読み、学童期の特徴についてノートに整理してくる(1時間)。 事後学習：各自の『子どもの成長・発達ノート』に自分なりに特徴の要点をまとめて、理解を深める(1時間)。
10	思春期の特徴と支援	1) 形態的機能発達 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達 4) 子どもと家族の日常生活への支援 5) 思春期に起こりやすい健康問題と支援	事前学習：テキストを読み、思春期の特徴についてノートに整理してくる(1時間)。 事後学習：各自の『子どもの成長・発達ノート』に自分なりに特徴の要点をまとめる(1時間)。
11	健康問題を抱える子どもと家族への支援①	1) 身体障害のある子どもと家族への支援 2) 発達障害のある子どもと家族への支援 3) 小児の在宅看護の役割と機能 ・小児の在宅ケアの実際 ・重症心身障害児をもつ小児と家族の現状と看護 ゲストスピーカー：松木看護師(稲生会訪問看護ステーションくまさんの手ケア部門統括責任者)	事前学習：テキストを読んでくる(30分)。 事後学習：講義で学習した内容をレポートにまとめる(1時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	健康問題を抱える子どもと家族への支援②	1) 心の問題を抱える子どもと家族への支援 2) 虐待を受けた子どもと家族への支援	事前学習：テキストを読んでくる(30分)。 事後学習：虐待を受けた子どもの看護についてノートにまとめる(1時間)。
13	外来における子どもと家族の看護	1) 外来を受診する子どもと家族の特徴 2) 小児科外来の特徴 3) 小児科外来における看護の役割	事前学習：テキストを読んでくる(30分)。 事後学習：講義で学習した内容をノートにまとめる(1時間)。
14	小児の事故防止と安全教育	1) 小児の死亡原因・小児の発達段階と事故要因 2) 事故防止と安全教育	事前学習：日常生活のなかで子どもに起こりやすい事故と対策について考えてくる(30分)。講義終了後、学習シートを記載し、提出する。 事後学習：講義内容を復習し、発達段階に応じた対策についてノートにまとめる(1時間)
15	災害を受けた子どもと家族の看護/ 小児看護概論のまとめ	1) 災害時の子どもおよび家族の看護について 2) 東日本大震災における相談対応の実際 3) 小児看護学概論のまとめ ※講義終了後、指定の期日に「子どもの成長・発達ノート」を提出する(共同研究室前小児ボックス)。	講義時に自己の『小児の成長・発達』ノートを持参してください。 事前学習：災害を受けた子どもおよび家族の看護についてテキストを読んでくる(30分)。 事後学習：今までの講義内容を復習し、『小児の成長・発達』ノートを実践で活用できるようにポイントを整理する(1時間)。

授業科目	母性看護学概論 Introduction to Maternal Nursing			担当教員	齋藤 早香枝		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における身体・心理・社会的な健康状態の特徴と健康課題およびその看護について理解し、母性看護におけるヘルスプロモーションについて学ぶ。また、母性看護と生命倫理、母性看護の歴史の変遷について理解する。さらに、母性保健の変遷と動向を、性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブヘルス・ライツ）の視点からグローバルに学び、現代の母子を取り巻く社会情勢や環境、政策、制度、法律を理解し母性看護の課題や役割を考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の概念、リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護におけるヘルスプロモーションについて説明できる。 2. 母性看護の対象の身体的、心理・社会的特性について説明できる。 3. 人間の性と生殖について説明できる。 4. 女性のライフサイクル各期における対象の特徴と課題について説明できる。 5. 母性看護の歴史の変遷や母性看護の現況について説明できる。 6. 母性看護に関する法律および母子保健施策について説明できる。 7. 母性意識の発達、母親役割獲得過程、家族関係、子育てについて考えることができる。 						
関連科目	母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱ、母性看護実習Ⅰ・Ⅱ						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学概論」(医学書院) 2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」(医学書院) 						
参考書	講義の中で、随時紹介します。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	90	到達目標の達成度を定期試験 90%、レポート 10%で評価します。詳細はガイダンスで示します。				
	レポート	10					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	積極的な授業への関与を期待します。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートはコメントし返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	母性看護に関連する概念と理論	母性とは何かを幅広く考え、母性看護学における母性のとらえ方について理解を深める。 ・親になることと母性 ・母性をめぐる定義			事前学習：シラバスを読み科目のねらい、到達目標を理解する (30分) 事後学習：授業の復習をする (1時間)		
2	母性看護に関連する概念と理論	<ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の理念について理解する。 2) リプロダクティブヘルス / ライツの概念を理解する。 3) 母性看護におけるヘルスプロモーション。 			事前学習：教科書を読んでくる (30分) 事後学習：授業の復習をする (1時間)		
3	セクシュアリティの特徴、発達	セクシュアリティの定義・発達・課題について考えることができる。 ・セクシュアリティとは ・ライフステージにおけるセクシュアリティの特徴、発達課題			事前学習：教科書を読んでくる (30分) 事後学習：授業の復習をする (1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	女性のライフサイクルにおける形態の変化・機能の発達を理解する。 ・生殖器の形態、機能 ・性周期におけるホルモンと生殖機能の変化	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：性周期におけるホルモンについて復習する(1.5時間)
5	母性看護における倫理	母性看護における倫理的問題について考えることができる。 ・生殖補助医療、遺伝子診断の発展に伴う倫理的問題 ・女性の権利と胎児の権利	事前課題：これまで学修した倫理の基本原則を復習する(1時間) 事後学習：母性看護における倫理的問題について自己の考えをまとめる(3時間)
6	母性看護の歴史の変遷と近年の動向 母子保健統計	1)母性看護の発展を歴史の変遷から捉えることができる。 ・母性看護の起源 ・近代産科学の歴史と助産の発展 ・戦後の母子保健の基盤整備 2)母性看護の動向を母子保健統計から捉えることができる。	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
7	母子保健施策	母性看護に関する組織と法律について理解する。 ・母性看護に関する主な法律 ・母子保健に関連する施策 ・母性看護の対象を取り巻く環境	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
8	ライフサイクルにおける女性の健康と看護①	思春期女性の身体的、心理・社会的特徴と課題を理解する。 ・思春期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・思春期の健康問題と看護 ・性教育	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
9	ライフサイクルにおける女性の健康と看護②	成熟期女性の健康と課題を理解する① ・妊娠、出産、分娩 ・家族計画	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
10	ライフサイクルにおける女性の健康と看護③	成熟期女性の健康と課題を理解する② ・親になる過程 ・愛着と母子関係	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
11	ライフサイクルにおける女性の健康と看護④	成熟期女性の健康と課題を理解する③ ・女性特有の疾患と看護 ・不妊症	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
12	ライフサイクルにおける女性の健康と看護⑤	更年期・老年期女性の健康と課題を理解する。 ・更年期・老年期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・更年期障害と看護 ・尿失禁と看護	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
13	リプロダクティブヘルスケア①	性感染症とその予防について理解する。 ・性感染症の種類と動向 ・性感染症の予防	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
14	リプロダクティブヘルスケア②	周産期の死に対する看護を理解する。	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)
15	リプロダクティブヘルスケア③	DV 被害と性暴力被害を受けた女性に対する看護について理解する。 ・ドメスティックバイオレンス ・性暴力	事前学習：教科書を読んでくる(30分) 事後学習：授業の復習をする(1時間)

授業科目	母性看護活動論Ⅰ Maternal and Newborn Care NursingⅠ		担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子、 海老名 由紀子			
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	演習		単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理的变化と適応、および母親と家族の心理的变化について理解し、母子とその家族に対する看護に必要とされる基本的知識とヘルスアセスメントの視点を理解する。また、健康管理のためのセルフケアへの看護を学ぶとともに、社会資源の活用方法についても学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥期にある対象者の身体的、心理・社会的特性と看護について説明できる。 2. 胎児・新生児の発育・発達の特性と看護について説明できる。 3. 対象者のヘルスアセスメントの視点を説明できる。 4. 母子の健康の保持・増進のための看護、セルフケアへの看護を説明できる。 5. 母子とその家族が活用できる社会資源について説明できる。 6. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常とその看護を説明できる。 						
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅱ、母性看護実習Ⅰ・Ⅱ						
テキスト	森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」(医学書院)						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本ラクテーション・コンサルタント協会編「母乳育児スタンダード」(医学書院) 2. 荒木奈緒編「ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術」(MCメディカ出版) 3. 新藤幸恵、和田サヨ子「母性の心理社会的側面と看護ケア」(医学書院) 						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	90	目標への到達状況を試験、提出物により総合的に評価する。 ・定期試験：筆記試験(90点)：知識の目標到達度を評価する。 ・提出物(10点)：ワークシートでの学修状況、理解の程度から目標到達度を評価する。 定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象としません。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	10					
その他							
履修上の 留意事項	母性看護活動論Ⅱ、母性看護実習Ⅰ・Ⅱに必要な基本的知識を学びます。ワークシートの予習・復習を通じて学びを深めてください。						
課題に対するフィ ードバックの方法	課題に対しては、授業内で適宜フィードバックします。 提出物はコメントして返却します。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から実際の看護場面の事例を講義に織り交ぜながら、妊産褥婦と新生児の看護を理解しやすいように授業を行います						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (齋藤)	妊娠期における 看護①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の成立と妊婦の生理的变化を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠成立の機序が説明できる。 2) 母体の生理的变化について説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生殖器における変化 ・妊娠による全身的变化 				事前学習：シラバスを読んでおくこと(15分) 事後学習：ワークシートの指定カ所の学修(1時間)	
2 (齋藤)	妊娠期における 看護②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の心理・社会的変化について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的・社会的変化にともなう心理を説明できる。 2) 妊娠経過にともなう不安や葛藤を説明できる。 3) 親になることへの準備とアセスメントを説明できる。 2. 胎児の発育とその生理について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胎児の発育を説明できる。 2) 胎児の生理を説明できる。 3) 胎盤と羊水の生理を説明できる。 4) 胎児への薬物・放射線の影響を説明できる。 				事前学習：ワークシートの指定カ所の学修(1時間) 事後学習：ワークシートの修正・復習(1時間)	
3 (齋藤)	妊娠期における 看護③	妊娠の経過に応じた健康診査と日常生活の援助について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦の妊娠週数に応じた健康診査方法を説明できる。 2) 妊婦と胎児のアセスメントの視点を説明できる。 3) 妊婦の日常生活におけるセルフケア能力を高める援助の要点を説明できる。 4) 分娩準備に対する援助について説明できる。 				事前学習：ワークシートの指定カ所の学修(1時間) 事後学習：ワークシートの修正・復習(1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (齋藤)	妊娠期における 看護④	ハイリスク妊娠とその看護を理解する。 ・妊娠期の感染症 ・妊娠高血圧症候群 ・多胎 ・妊娠性貧血 ・妊娠悪阻 ・血液型不適合妊娠 ・早産・切迫早産 ・妊娠糖尿病	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
5 (齋藤)	分娩期における 看護①	正常分娩の経過とアセスメントの視点を理解する。 1) 分娩に関する用語の定義が説明できる。 2) 分娩のメカニズムと分娩の経過について説明できる。 3) 産婦と胎児の健康状態のアセスメントについて説明できる。 4) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントの視点を説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
6 (海老名)	分娩期における 看護②	正常分娩の看護を理解する。 1) 分娩を促進する日常生活の援助について説明できる。 2) 産痛のメカニズムと緩和方法について説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
7 (齋藤)	分娩期における 看護③	分娩期の異常と看護について理解する。 1) 分娩期における正常からの逸脱の予測・逸脱徴候の早期 発見とその対応を説明できる。 ・分娩3要素の異常と看護 ・破水時の看護 ・異常出血の看護 2) 帝王切開の適応と看護のポイントを説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
8 (澤田)	産褥期における 看護①	産褥期の退行性変化と進行性変化について理解する。 1) 産褥期の退行性変化を説明できる。 2) 産褥期の進行性変化を説明できる。 3) 産褥期の生理的変化を促進する援助について説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
9 (澤田)	産褥期における 看護②	褥婦の産褥経過に応じた日常生活への援助を理解する。 1) 褥婦の健康診査の必要性と診査内容を説明できる。 2) 褥婦の日常生活援助の要点を説明できる。 3) 母乳栄養確立および育児技術習得への援助を説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
10 (澤田)	産褥期における 看護③	1. 産褥期の心理・社会的変化への看護について理解する。 1) 褥婦の心理過程を説明できる。 2) 褥婦とその家族の社会的変化について説明できる。 2. 母子および家族に適応される法的保護・諸制度・社会資源について理解する。 1) 母子および家族に対する社会資源の活用について考えることができる。 2) 退院に向けた援助の要点を説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
11 (澤田)	産褥期における 看護③	産褥期に発生しやすい異常とその看護について理解する。 1) 産褥期に起こりやすい異常と看護の要点を説明できる。 ・子宮復古不全 ・乳腺炎 ・産後うつ、精神障害など	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
12 (野崎)	新生児における 看護①	新生児の生理的変化について理解する。 1) 新生児に関する用語の定義・分類について説明できる。 2) 新生児の出生直後の生理的変化の要点が説明できる。 3) 新生児の適応過程における生理的変化が説明できる	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
13 (野崎)	新生児における 看護②	新生児の日常生活の援助を理解する。 1) 新生児の健康診査の要点が説明できる。 2) 新生児看護の原則を説明できる。	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
14 (野崎)	新生児における 看護③	新生児期の異常とその看護について理解する。 1) 新生児期にみられる異常に関する機序・治療・看護の ポイントを説明できる。 ・新生児仮死 ・分娩外傷 ・低出生体重児 ・早産児 ・ビリルビン血症 ・ビタミンK欠乏性出血症	事前学習：ワークシートの指定 カ所の学修（1時間） 事後学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間）
15 (全教員)	講義のまとめ	ミニ事例を用いて事例の健康課題と援助を考える。	事前学習：ワークシートの修正・ 復習（1時間） 事後学習：これまでの講義内容を 復習し、ワークシートを実践 で活用できるように整理する（1 時間）。

授業科目	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Nursing		担当教員	吉野 淳一、原田 由香、佐々木 晶子			
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史的変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史の変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論およびE.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 各ライフステージにおける精神的健康上の課題について社会的状況と関連付けながら理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。 						
関連科目	精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱ、精神看護実習						
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ ところの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂) 2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂) 2022						
参考書							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80%	試験：定期試験を実施し、学習到達度を評価する (80%) 吉野 20%、原田 50%、佐々木 10%				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	20%	提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを1回課す (20%)				
その他							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・事前学習はテキストの該当ページに沿った予習を、事後学習は配布資料にて復習すること。 [実務経験を活かした教育内容] ・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。 						
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。						
実務経験を活かした教育内容	・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (原田)	・ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・ところ (精神) の健康とは	・ところ (精神) の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは			・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し (2時間)、配布資料にて復習する (2時間)。		
2 (吉野)	ところの機能と発達	J. フロイトのいうところの構造と発達理論、防衛機制			・該当ページをテキストで予習し (2時間)、配布資料にて復習する。(2時間)		
3 (吉野)	精神科リハビリテーションとリカバリー概念	・対象喪失という概念とストレスモデル ・リカバリー			・該当ページをテキストで予習し (2時間)、配布資料にて復習する (2時間)。		
4 (原田)	ライフサイクルと精神保健①	・エリクソンの心理社会的発達理論 ・ライフサイクルから見た精神看護 ・乳幼児期における精神の健康			・該当ページをテキストで予習し (2時間)、配布資料にて復習する (2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (原田)	ライフサイクルと精神保健②	・学童期、思春期・青年期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
6 (原田)	ライフサイクルと精神保健③	・成人期、老年期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
7 (原田)	精神看護に用いる理論とモデル	・患者 - 看護師関係 ・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
8 (原田)	家庭・学校における精神保健	・家族と精神保健 ・学校と精神保健	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
9 (佐々木)	リエゾン精神看護	・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科的問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
10 (原田)	災害精神医学	・災害精神医学とは ・ストレスとメンタルヘルス ・災害と関連する主な疾患	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
11 (原田)	精神保健医療福祉の歴史の変遷	・世界における精神医療の歴史の変遷 ・日本における精神医療の歴史の変遷	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
12 (原田)	精神保健医療福祉に関連した法制度とその活用	・精神保健福祉の概要 ・精神保健福祉に関連した法律	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
13 (原田)	人権を守るために - 精神看護における基本的人権と倫理的問題	・人権とは ・医療者が行うべき倫理的配慮 ・精神科医療現場で注意すべきこと ・原則と倫理綱領 ・守秘義務と個人情報の保護 ・患者の権利と人間の尊厳	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
14・15 (原田)	精神を病むということ	映画「A Beautiful Mind」 視聴	・事後学習:ワークシートを整理するとともに、概論での学びについて総復習する(2時間)。

授業科目	リハビリテーション看護論Ⅰ Rehabilitation Nursing Ⅰ			担当教員	小野 善昭、河崎 和子、原田 由香		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					◎	○	
授業目的	リハビリテーションの概念や意味について学び、リハビリテーション看護の基礎的知識・技術・態度について学習する。ここでは、リハビリテーションを必要としている人および家族への看護の特徴、法律、倫理的な課題およびリハビリテーションにおける看護職の役割を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意味を理解する 2. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 3. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題について理解する 4. リハビリテーションを必要としている人の特徴を理解する 5. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の特徴について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 6. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 						
関連科目	主にリハビリテーション看護論Ⅱに関連する。その他、専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。						
テキスト	酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護 改訂第3版」(南江堂) 鈴木康之他 編集「新生児医療から療育支援へ すべてのいのちを育むために」(インターメディカ)						
参考書	中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第6版」(医学書院) 奥宮暁子他 編集「ナースングラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護」(メディカ出版) 落合美美子 監修「新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 第2版」(メヂカルフレンド社) 池淵恵美「こころの回復を支える精神障害リハビリテーション 第1版」(医学書院)						
評価方法・基準	評価方法	評価方法	評価方法				
	試験	60%	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人の生活に関するレポートなど3つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。なお、課題とレポートの配点は第6回が10点、7回目が10点、第8回が20点である。また、筆記試験の配点は小野担当が40点、河崎担当が10点、原田担当が10点である。				
	レポート	20%					
	小テスト						
	提出物	20%					
その他							
履修上の留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、各教員から課題のフィードバックについて説明します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の概念や意味について理解しやすいように授業を行います。また、様々な領域で行われているリハビリテーション看護について実践などを踏まえて授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (小野)	リハビリテーションの意味と看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. リハビリテーションとは 3. 国際生活機能分類(ICF)の考え方 4. リハビリテーション医療システムと看護の役割 			事前学習: シラバスを熟読し、目標と内容について確認する。 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。		
2 (小野)	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論	<ol style="list-style-type: none"> 1. QOL 2. 自立と自律 3. 動機と主体性 4. 社会的不利 			事前学習: 必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する。 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。		
3 (小野)	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題 2. 生活機能障害のある人とその家族の理解 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. リハビリテーションに関する法律や障害者を支える制度 1-2. 看護実践に関連する道徳的概念とリハビリテーション看護 1-3. リハビリテーション看護における倫理的葛藤 2-1. 身体的・心理的特徴 2-2. 生活上の特徴 2-3. 家族の特徴 			事前学習: 必要な概念や制度などについて、テキストの指定された箇所を用いて学習する。 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (小野)	生活機能障害のある人 とその家族の理解 2	障がいのある人の生活を理解するためのフィールドワーク	事前学習：事前に提示された課題を確認する。 事後学習：提示された課題に取り組む。
5 (小野)	回復過程とリハビリテーション看護	1. 急性、回復期、生活期の各ステージにおける対象者の特徴 2. 各ステージにおけるリハビリテーションの目的と看護援助のポイント 3. フレイルとサルコペニア	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する。 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。
6 (河崎)	小児のリハビリテーション	1. リハビリテーションを必要とする児の特徴 2. 小児科領域におけるリハビリテーション 3. 小児へのリハビリテーション看護	事前学習：子どもの成長発達過程におけるリハビリテーションと生活支援について学習する。講義前までにテキストの該当箇所を読んで講義に臨む。 事後学習：講義時に指示された課題を講義終了後期日までに提出する。
7 (原田)	精神障がいのある人の リハビリテーション	1. 精神障がいのある人の特徴 2. 精神科領域におけるリハビリテーション 3. 精神障がいのある人のリハビリテーション看護	事前学習：テキストの関連箇所を読む。 事後学習：講義で使用した資料内容について各自復習する。
8 (小野)	生活機能障害のある人 とその家族の理解 3、 まとめ	1. フィールドワーク結果の発表と共有 2. まとめ	事前学習：これまでの講義資料を確認する。第 4 回の課題を整理する。 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	スポーツと看護 Sports and Nursing			担当教員	中田 真依、槌本 浩司、今北 雄太、 三上 剛人		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎
授業目的	看護における健康の保持増進、病気の予防、健康回復への支援方法の一つとして、健康づくりのためのスポーツや運動の心身への影響、体力づくりと健康習慣、年代別および病気と健康運動習慣、スポーツや運動の実践者に対する傷害予防と応急処置法等の基礎を学び、看護実践への活用について理解する。また、健康づくりのスポーツや運動の実践者に対する看護の役割と多職種との連携について理解する。						
到達目標	1) スポーツを含む運動実践者に対する看護の役割と多職種との連携のあり方を理解し、説明できる。 2) 運動と生体機能の関連について理解し、説明できる。 3) スポーツや運動を習慣とする健康づくりの効用について理解し、実践できる。 4) スポーツや運動実践者の年代別に栄養生活上の留意点について理解し、説明できる。 5) 病気をもつスポーツや運動の実践者に対する看護上の留意点について理解し、説明できる。 6) スポーツや運動の実践時での傷害に対する応急処置法について理解し、部分的に実践できる。						
関連科目	スポーツ理論、形態機能学Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学、他						
テキスト	なし						
参考書	講義内に提示する						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80%	目標の到達状況を、定期試験80%、レポート20%の合計100%によって評価する。				
	レポート	20%					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	各回、講義資料に基づき復習する時間を確保し、講義や演習に必要な準備をして臨むこと。演習は履修人数によってクラス分けする可能性がある。						
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者（看護師、管理栄養士、健康運動指導士、救急救命士、スポーツ指導者）の立場から、健康づくりや運動、スポーツ時の応急処置、ウォーキング・バスケットなどの実践を織り交ぜ、スポーツと看護について理解しやすいよう授業・演習を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (中田)	ガイダンス 健康運動と看護の役割 および多職種との連携	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 健康運動と看護の役割を学修する ・健康づくりと運動 ・看護における健康運動の位置づけ ・介護予防・生活習慣予防と運動習慣 スポーツ看護における多職種との連携を学修する				事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）	
2 (今北)	健康づくりと運動習慣	健康づくりと運動習慣について学修する ・体力測定と評価 ・有酸素運動 ・筋力トレーニング法 ・ストレッチ運動				事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）	
3 (槌本)	生体機能と運動	生体機能と運動について学修する ・運動器系・神経系と運動 ・呼吸器系・循環器系と運動				事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）	
4 (槌本)	健康運動と年代別栄養 生活	健康運動と年代別栄養生活について学修する ・エネルギー産出と消費の関係 ・発達期にある子どもの留意点 ・若い女性の留意点 ・高齢者の留意点				事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (中田)	病気と運動 演習ガイダンス	病気と運動の関連について学修する ・基礎疾患をもったスポーツ運動実践者への看護 演習ガイダンス	事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）
6 (三上)	スポーツ実践者への応急処置（一部演習）	スポーツ実践者への応急処置について、一部演習方式で学修する ・熱中症 ・骨・関節の外傷・障害 ・切創・挫創・擦過傷 ・頭部外傷・強打 ・三角巾の使用	事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）
7 (中田 他)	基礎的な健康運動と体力づくり：ウォーキング・バスケットの効用と実際（演習） GS：スポーツ関係者	ウォーキング・バスケットの効用と実際について、演習を通して学修する （人数によっては2～3クラス展開する） 【課題】演習終了後レポート作成	事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する、演習終了後レポート作成（2時間）
8 (中田)	スポーツと看護 まとめ	スポーツに関わる看護の役割について、総括的に学修する ・健康スポーツナースの出現と看護の意義 ・スポーツ界で活躍する看護の将来展望	事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1～2時間） 事後学習：講義内容全般を復習する（2時間以上）

授業科目	地域連携ケア論Ⅱ Theory of Community-based Care II		担当教員	槌本 浩司、氏家 志乃、澤田 優美、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、2年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰで学んだ内容をもとに、住み慣れた地域で人々が自分らしく生活し続けるためには、どのような社会資源が整うと良いのか考え、地域で生活する人々の生活および健康上の課題を解決するために、地域にはどのような社会資源があるのか、どのような支援やサービス、システムがあるのかを理解する。その中で、人々の生活を支える専門職の専門性と役割について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域で生活するということ」とそれに影響する要因、地域住民の抱える生活・健康上の課題について、地域連携ケア論Ⅰでの学びを振り返る。 ・地域に存在する社会資源、サービス、システムについて理解する。 ・地域で活動する保健医療福祉分野の専門職の役割、専門性、業務内容を理解する。 ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・地域でその人らしく生活するためにどのような社会資源が必要なのかを考察する。 						
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連します。						
テキスト	なし						
参考書	開講時に提示します。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		各回、授業内容に応じた提出物(40%)を予定しています。また、目標の達成状況をレポート(60%)に記載しましょう。詳細は授業の中でも説明します。				
	レポート	60					
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰと一体の科目として学習しましょう。						
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行いましょう。また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却します。						
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開します。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (小川)	授業ガイダンス	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ」の振り返り。健康とは、地域で暮らす生活者の生活と健康との関連、地域の健康課題とはなにか、地域に存在する社会資源とサービスについて				授業前にシラバスを読む(1時間)。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習する(2時間)。	
2 (小川)	地域包括ケアシステムとは	「地域包括ケアシステム」について理解する				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
3 (槌本)	保健医療福祉における専門職の役割	保健医療福祉における各種の専門職とその役割について理解する				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
4 (小川)	地域における生活者を支える専門職からの講話Ⅰ	専門職者からの見た地域と生活者と健康課題についてⅠ (ゲストスピーカー 訪問看護師)				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
5 (小川)	地域における生活者を支える専門職からの講話Ⅱ	地域包括支援センターの機能と役割について (東区第2層 生活支援コーディネーター 高橋 悦子氏)				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (澤田)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅠ	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その1）	授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。
7 (氏家)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅡ	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その2）	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
8 (槌本)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅢ	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その3）	授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。

授業科目	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing			担当教員	近藤 明代		
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期			選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者は必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎		○	
授業目的	公衆衛生看護の外相と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する。						
到達目標	1.公衆衛生看護が社会で生活する人々（集団）の健康の保持・増進と安寧を目指す活動であることを理解する。 2.公衆衛生看護が遵守する倫理を理解する。 3.公衆衛生看護の役割を發揮するために求められる知識と技術を理解する。 4.公衆衛生看護活動の対象を理解する。 5.公衆衛生看護活動の方法の特性を理解する。 6.公衆衛生看護活動の基盤となる理論や概念と理解する。 7.公衆衛生看護活動の場の多様性を理解する。						
関連科目	地域看護学、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護対象論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論等						
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」(メディアックメディア) その他授業に必要な資料は、その都度配布する。						
参考書	大国美智子「保健婦の歴史」(医学書院) リリアン・ウォルド「ヘンリー・ストリートの家」(日本看護協会出版会) 木下安子「近代日本看護史」(メヂカルフレンド社) その他授業に必要な文献は、その都度紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	公衆衛生看護の歴史と現在の公衆衛生看護活動から捉えた公衆衛生看護活動の特徴に関するレポート(20%)と定期試験(筆記試験)(80%)の結果を基に、目標達成状況を評価します。				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	・ 毎回シラバスに記載されている「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら授業内容を理解する。 ・ 授業中または授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしにせず、その場あるいは授業終了後に担当教員に質問してください。						
課題に対するフィードバックの方法	授業で使用使用するプリントは事前(前の回)に配付をしたいと考えています。プリントと教科書の該当部分を伝えますので、事前に目を通してください。毎回本科目の目的と目標を確認し、学習のポイントを確認しながら展開します。						
実務経験を活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である公衆衛生看護学の基本となる考え方を伝えます。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割、活動の場	本科目の目的・目標、授業内容と評価方法、履修上の留意点について説明。 公衆衛生看護の定義、社会的機能、役割				事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに学修内容を復習する(2時間)。	
2	公衆衛生看護の歴史からの学び(1)	公衆衛生看護の発生と発達過程から、社会変化に伴う公衆衛生看護が担う役割と活動の変化を捉える。				事前:事前に配付された資料に目を通す(1時間)。 事後:教科書や配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする(2時間)。	
3	公衆衛生看護の歴史からの学び(2)	公衆衛生看護の歴史から公衆衛生看護の対象の特性(個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織、地域の制度や仕組みを構築する社会や組織)を捉える。				事前:事前に配付された資料に目を通す(1時間)。 事後:教科書や配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする(2時間)。	
4	公衆衛生看護の歴史からの学び(3)	・公衆衛生看護の歴史から公衆衛生看護における支援方法の特性を捉える。 ・公衆衛生看護が展開される場の多様性を明確にする。				事前:事前に配付された資料に目を通す(1時間)。 事後:教科書や配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	公衆衛生看護の歴史から捉える基盤となる概念、責務、倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の歴史から、公衆衛生看護の責務と理論を捉える。 ・公衆衛生看護の歴史から捉える活動の基盤となる概念 	<p>事前：事前に配付された資料に目を通す（1時間）。</p> <p>事後：教科書や配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2時間）。</p>
6	現代の公衆衛生看護活動から捉える公衆衛生看護の特性（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の公衆衛生看護活動の紹介（1） ・ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ ・地域の健康課題への介入方法 ・地域ケアシステムの構築とまちづくり 	<p>事前：事前に配付された資料に目を通す（1時間）。</p> <p>事後：教科書や配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2時間）。</p>
7	現代の公衆衛生看護活動から捉える公衆衛生看護の特性（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の公衆衛生看護活動の紹介（2） ・公衆衛生看護活動の基盤となる概念 ・パートナーシップ、コミュニティ・エンパワメント、ソーシャルキャピタル 	<p>事前：事前に配付された資料に目を通す（1時間）。</p> <p>事後：教科書や配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2時間）。</p>
8	公衆衛生看護活動の特性から保健師に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の学びから公衆衛生看護活動の特性と保健師の役割をまとめる ・公衆衛生看護活動の目標を達成するために、保健師に求められる実践能力 	<p>事前：事前に配付された資料に目を通す（1時間）。</p> <p>事後：いくつかの活動事例から捉えた公衆衛生看護の特徴をまとめる（3時間）。</p>